

【現代文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
8231001	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	金2	小長谷 大介		現代文化学系1
8231003	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田 哲治		現代文化学系2
8231004	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	金2	伊勢田 哲治		現代文化学系3
8231005	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	木2	飯田 豊		現代文化学系4
8231006	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	集中	直江 清隆		現代文化学系5
8231007	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	集中	平岡 隆二		現代文化学系6
8231008	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	月4	伊勢田 哲治,清水 雄也		現代文化学系7
8231009	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	集中	鈴木 貴之		現代文化学系8
8241001	科学哲学科学史	演習	2	前期	火2	斎藤 光		現代文化学系9
8241002	科学哲学科学史	演習	2	後期	火2	斎藤 光		現代文化学系10
8241003	科学哲学科学史	演習	2	前期	金3	伊勢田 哲治		現代文化学系11
8241004	科学哲学科学史	演習	2	後期	金3	伊勢田 哲治		現代文化学系12
8241005	科学哲学科学史	演習	2	前期	火5	矢田部 俊介		現代文化学系13
8241006	科学哲学科学史	演習	2	後期	火5	矢田部 俊介		現代文化学系14
M383001	科学哲学科学史	演習	2	前期	水4	伊勢田 哲治		現代文化学系15
M383002	科学哲学科学史	演習	2	後期	水4	伊勢田 哲治		現代文化学系16
8931001	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火3	小野沢 透		現代文化学系17
8931002	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史		現代文化学系18
8931003	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史		現代文化学系19
8931004	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己		現代文化学系20
8931005	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志		現代文化学系21
8931006	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火4	藤目 ゆき		現代文化学系22
8931007	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志		現代文化学系23
8931008	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月3	西山 伸		現代文化学系24
8931009	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月4	松永 伸司		現代文化学系25
8931010	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水4	須田 千里		現代文化学系26
8931011	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	須田 千里		現代文化学系27
8931012	メディア文化学	特殊講義	2	前期	集中	上田 信		現代文化学系28
8931013	メディア文化学	特殊講義	2	前期	火4	福家 崇洋		現代文化学系29
8931014	メディア文化学	特殊講義	2	前期	集中	藤原 重雄		現代文化学系30
8931015	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水2	木下 千花		現代文化学系31
8931016	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	木下 千花		現代文化学系32
8931017	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火2	喜多 千草		現代文化学系33
8931018	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水3	仁井田 千絵		現代文化学系34
8931019	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水3	仁井田 千絵		現代文化学系35
8931020	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水5	岸 政彦		現代文化学系36
8931021	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	東 園子		現代文化学系37
8931022	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月5	吉田 純		現代文化学系38
8931023	メディア文化学	特殊講義	2	前期	集中	坂本 尚志		現代文化学系39
8931024	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	安岡 孝一		現代文化学系40
8931025	メディア文化学	特殊講義	2	前期	火2	ROTH, Martin		現代文化学系41
8931026	メディア文化学	特殊講義	2	前期	木2	守 如子		現代文化学系42
8931027	メディア文化学	特殊講義	2	後期	木2	飯田 豊		現代文化学系43
8931028	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月2	森尾 博昭		現代文化学系44
8931029	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	堀 潤之		現代文化学系45
8931030	メディア文化学	特殊講義	2	前期	火2	小堀 聡		現代文化学系46
8931031	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火2	小堀 聡		現代文化学系47
8931032	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月4	村上 衛		現代文化学系48
8931033	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	村上 衛		現代文化学系49
M431001	メディア文化学	特殊講義	2	通年	水4	太郎丸 博		現代文化学系50
M431002	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月4	安岡 孝一		現代文化学系51
M431003	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	安岡 孝一		現代文化学系52
M431004	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月2	KITSNIK, Lauri		現代文化学系53
M431005	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月5	ROTH, Martin		現代文化学系54
8941001	メディア文化学	演習I	2	前期	金2	喜多 千草		現代文化学系55
8941002	メディア文化学	演習I	2	後期	水4	松永 伸司		現代文化学系56
8944003	メディア文化学	演習II	2	後期	木4	河瀬 彰宏		現代文化学系57
8944004	メディア文化学	演習II	2	前期	木3	峯村 至津子		現代文化学系58
8944005	メディア文化学	演習II	2	後期	木3	峯村 至津子		現代文化学系59

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
8944009	メディア文化学	演習Ⅱ	2	後期	月3	伊藤 遊		現代文化学系60
8944010	メディア文化学	演習Ⅱ	2	前期	水2	喜多 千草,小泉 俊		現代文化学系61
8944011	メディア文化学	演習Ⅱ	2	前期	月3	松田 利彦		現代文化学系62
8944012	メディア文化学	演習Ⅱ	2	前期	月2	石川 禎浩		現代文化学系63
8944013	メディア文化学	演習Ⅱ	2	後期	月2	石川 禎浩		現代文化学系64
8944014	メディア文化学	演習Ⅱ	2	前期	火3	小野沢 透		現代文化学系65
8944015	メディア文化学	演習Ⅱ	2	前期	水4	塩出 浩之		現代文化学系66
8946001	メディア文化学	演習ⅢA	2	前期	金3,金4	喜多 千草,松永 伸司		現代文化学系67
8947001	メディア文化学	演習ⅢB	2	後期	金3,金4	喜多 千草,松永 伸司		現代文化学系68
8948001	メディア文化学	演習ⅢC	2	後期	集中	喜多 千草,松永 伸司		現代文化学系69
M432001	メディア文化学	演習	4	通年	水5	喜多 千草,松永 伸司		現代文化学系70
8433001	現代史学	特殊講義	2	後期	火3	小野沢 透		現代文化学系71
8433002	現代史学	特殊講義	2	前期	木5	箱田 恵子		現代文化学系72
8433003	現代史学	特殊講義	2	後期	火4	藤目 ゆき		現代文化学系73
8433004	現代史学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史		現代文化学系74
8433005	現代史学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史		現代文化学系75
8433006	現代史学	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志		現代文化学系76
8433007	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志		現代文化学系77
8433008	現代史学	特殊講義	2	前期	月4	村上 衛		現代文化学系78
8433009	現代史学	特殊講義	2	後期	月4	村上 衛		現代文化学系79
8433010	現代史学	特殊講義	2	後期	月3	西山 伸		現代文化学系80
8433011	現代史学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己		現代文化学系81
8433012	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	帯谷 知可		現代文化学系82
8433013	現代史学	特殊講義	2	前期	水4	小関 隆		現代文化学系83
8433014	現代史学	特殊講義	2	後期	水4	小関 隆		現代文化学系84
8433015	現代史学	特殊講義	2	前期	月2	伊藤 順二		現代文化学系85
8433016	現代史学	特殊講義	2	後期	月2	伊藤 順二		現代文化学系86
8433017	現代史学	特殊講義	2	前期	月3	山口 元樹		現代文化学系87
8433018	現代史学	特殊講義	2	前期	火2	水谷 智		現代文化学系88
8433019	現代史学	特殊講義	2	前期	火4	福家 崇洋		現代文化学系89
8433020	現代史学	特殊講義	2	前期	火2	小堀 聡		現代文化学系90
8433021	現代史学	特殊講義	2	後期	火2	小堀 聡		現代文化学系91
8433022	現代史学	特殊講義	2	前期	水3	小野寺 史郎		現代文化学系92
8433024	現代史学	特殊講義	2	後期	火1	石川 亮太		現代文化学系93
8448001	現代史学	演習Ⅱ	2	前期	月2	石川 禎浩		現代文化学系94
8448002	現代史学	演習Ⅱ	2	後期	月2	石川 禎浩		現代文化学系95
8448003	現代史学	演習Ⅱ	2	前期	火3	小野沢 透		現代文化学系96
8448004	現代史学	演習Ⅱ	2	前期	水4	塩出 浩之		現代文化学系97
8448007	現代史学	演習Ⅱ	2	前期	月3	松田 利彦		現代文化学系98
8448008	現代史学	演習Ⅱ	2	後期	水3	小野寺 史郎		現代文化学系99
M415001	現代史学	演習Ⅱ	2	前期	金5	駒込 武		現代文化学系100
M415002	現代史学	演習Ⅱ	2	後期	金5	駒込 武		現代文化学系101
8452001	現代史学	演習ⅢA	2	前期	金5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学系103
8452002	現代史学	演習ⅢB	2	後期	金5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学系104
M412001	現代史学	演習	4	通年	火5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学系105

現代文化学系1

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学 経営学部 教授 小長谷 大介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湯川秀樹とその時代を考える									
【授業の概要・目的】											
日本初のノーベル賞受賞者となった物理学者・湯川秀樹（1907-1981）。素粒子論という新分野を開拓した湯川の研究は、どのような時代背景のもと、どのような文化的・学術的影響を受けながら生まれ発展したのか。本授業では、近代日本の科学技術による国際的業績の一事例となった湯川の理論物理研究とその周辺を通じて、近代以降の日本の科学史の一断面を考察する。また、京都大学基礎物理学研究所の湯川記念館史料室が所蔵する史料の利用も予定している。											
【到達目標】											
近代日本の科学の発展について様々な関連事象を交えて理解するとともに、関連する現存史料の取り扱いや活用についての基礎知識を習得する。											
【授業計画と内容】											
1．ガイダンス 2．近代日本の物理学の概観 3．明治期の物理学者 4．大正期の物理学者 5．昭和期の物理学者 6・7．少年期の湯川と関連史料 8～10．青年期の湯川と関連史料 11～13．青年期以後の湯川と関連史料 14．湯川秀樹と各時代 15．フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100％）でみる。 各授業テーマに関する小レポート、期末レポートによる評価点を総合して平常点とする。											
【教科書】											
とくに使用せず、プリント・PDFを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介する参考文献・資料を読み、理解・関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

連絡は電子メール（konagaya@mail.ryukoku.ac.jp）で受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系2

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		科学哲学入門上級 Advanced Introduction to Philosophy of Science									
【授業の概要・目的】											
<p>この特殊講義においては科学哲学の古典的な論文や基礎的な論文を中心とした講義を通して、科学哲学という分野に入門することをめざします。具体的には、前半ではミル、ヒューウェル、ポパー、グリュンバウムらの古典的な論文を核として、その背景についてレクチャーを行います。後半では、近年注目を集める研究領域からいくつかをピックアップし、関連する基礎文献をリーディングとしつつ、背景や現在の諸問題との関わり（特に日本という文脈での含意）についてレクチャーを行います。こうした文献の読解とレクチャーを通して、科学哲学という分野の広がりを知ってもらうことがこの授業のねらいです。</p> <p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science through lectures focusing on classic and basic papers in the field. More concretely, In the first half of the class, we read classic papers of Mill, Whewell, Popper, Grunbaum and others. Lectures on the background of the papers will be given. In the latter half of the class, we pick up several areas in philosophy of science that attract attention recently. We read related basic literature and there will be lectures on the background, relationship with contemporary issues (especially implications in Japanese context) of the readings. Through such readings and lectures, this class try to show the breadth of the field of philosophy of science.</p>											
【到達目標】											
<p>科学哲学という分野の主要な課題を説明できるようになる。科学哲学の考え方を現在のさまざまな問題と結びつけることができるようになる。</p> <p>To be able to explain the historical background and basic issues of the field of philosophy of science. To be able to connect ideas in philosophy of science to various contemporary issues.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は日本語と英語で行われます。</p> <p>第一部 科学哲学の古典的諸問題 1 科学的推論（4週） 2 科学とは何か（3週）</p> <p>第二部 科学哲学のさまざまな基礎的課題 3 医療の哲学（4週） 4 予防原則の哲学（3週）</p> <p>まとめ(1週)</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

The lectures will be given both in Japanese and English.

Part I Classical Issues of Philosophy of Science

1. Scientific Reasoning (4 weeks)
2. What is Science? (3 weeks)

Part II Various Basic Issues in Philosophy of Science

- 3 Philosophy of Medicine (4 weeks)
- 4 Philosophy of Precautionary Principle (3 weeks)

Wrap up (1 week)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は、授業内容を理解できていること、またその理解した内容を適切に活用して具体例が分析できていること、という視点から行う。

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

【教科書】

以下の書籍から関連箇所を授業内で配布。

Bird, A. and Ladyman, J., eds. (2013) *Arguing about Science*. Routledge.

relevant parts of the following book will be distributed in the class.

Bird, A. and Ladyman, J., eds. (2013) *Arguing about Science*. Routledge.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

科学哲学科学史(特殊講義)(3)へ続く

科学哲学科学史(特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系3

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		学際性の哲学 Philosophy of Interdisciplinarity									
【授業の概要・目的】											
<p>現代社会におけるさまざまな問題に対処する上で、さまざまな分野の知見を総合し、学際的に研究を行うことの必要性は高まっている。しかし、科学哲学は伝統的に物理学や生物学などの古典的な研究分野を考察の対象とし、学際的な研究に特有の問題を扱うことは少なかった。この授業では、学際性を正面から主題にすることで学際的な研究とはどのようなものか、そして哲学はこうした研究に対して何ができるのかを考える。</p> <p>To deal with various problems in contemporary society, the necessity to conduct interdisciplinary research utilizing insights from various fields of knowledge gets increasingly more pressing. However, the research subject of traditional philosophy of science has been more conventional fields like physics and biology, paying little attention to problems specific to interdisciplinary studies. In this class, interdisciplinarity is taken as the main subject; we look at what an interdisciplinary study is and what philosophy of science can do to that kind of study.</p>											
【到達目標】											
<p>学際性についてこれまでどのようなことが問題となってきたかを理解し、さまざまな立場に対して批判的な検討ができるようになる。</p> <p>To understand what kind of issues are raised as to interdisciplinarity; to acquire the ability to examine various positions critically.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一部 学際性とは何か Part 1 what is interdisciplinarity</p> <p>1 学術分野とは what are disciplines?</p> <p>2 学際研究とは what are interdisciplinary studies?</p> <p>3 学際研究に哲学はどう関わるか relevance of philosophy</p> <p>第二部 学際性にまつわる諸問題 Part 2 Issues with interdisciplinarity</p> <p>4 学際性の類型 typologies of interdisciplinarity</p> <p>5 学際研究の認識論的問題 epistemic challenge of interdisciplinary research</p> <p>6 分野横断的研究の方法論 methods for cross-disciplinary research</p> <p>7 学際的学習 interdisciplinary learning</p> <p>8 産軍学共同と学際性 the military-industrial route to interdisciplinarity</p> <p>9 学際的研究の評価 evaluating interdisciplinary research</p> <p>第三部 学際研究の具体例 Part 3 concrete examples of interdisciplinary studies</p> <p>10 地球科学における学際性 interdisciplinarity in earth sciences</p> <p>11 生物学における学際性 interdisciplinarity in biological sciences</p> <p>12 社会科学における学際性 interdisciplinarity in social sciences</p> <p>13 科学技術社会論 science and technology studies (STS)</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

14 認知科学cognitive science

15まとめ wrap-up

[履修要件]

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

[成績評価の方法・観点]

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は授業内容をどの程度理解できているか、またその理解した内容をどの程度活用して具体例が分析できているか、という視点から行う。

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

[教科書]

以下の書籍からリーディングとして使用する部分を授業内で配布

Rolf Hvidtfeldt (2017) The Structure of Interdisciplinary Science. Palgrave Macmillan.

Robert Frodeman, et al. eds. (2016) The Oxford Handbook of Interdisciplinarity. Oxford University Press.

The readings are from the following books and will be distributed in the class.

Rolf Hvidtfeldt (2017) The Structure of Interdisciplinary Science. Palgrave Macmillan.

Robert Frodeman, et al. eds. (2016) The Oxford Handbook of Interdisciplinarity. Oxford University Press.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求める。

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30(オンライン授業となった場合は設けない)。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリ

科学哲学科学史(特殊講義)(3)へ続く

科学哲学科学史(特殊講義)(3)

アルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 産業社会学部 准教授 飯田 豊			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア技術史									
【授業の概要・目的】											
<p>「新しい が を変える」という言い回しが、世の中にはいろいろとある。たとえば、Twitterが政治を変える、ビッグデータが経済を変える、AIが仕事を変える、オンライン授業が教育を変える、マッチングアプリが恋愛を変える、メタバースがコミュニケーションなど、とくにデジタルメディアに関する事例は枚挙にいとまがない。それにともなって、新聞やテレビなどが伝える情報を批判的に読み解くという意味でのメディア・リテラシーだけでなく、インターネットを基盤とするデジタルメディアが遍在する社会を生き抜くための素養を身につけることが、小学校から大学にいたるまで、教育の現場で重視されるようになってきた。</p> <p>もっとも、新しいメディアの「新しさ」を深く追究しようと思えば、結局のところ、古いメディアとの比較を避けて通ることはできない。新しいメディアをめぐるさまざまな現象に興味をもち、積極的に解釈や分析を積極的に試みることは重要だが、同時に、目の前で起こっていることを近視眼的にとらえるのではなく、過去の事例から学び、現在にいかす思考を身につけることが望ましい。</p> <p>したがって、メディアについて理解するうえで、技術史の思考法はきわめて有用である。電話やラジオ、テレビが日常生活と不可分に結びついた20世紀を経て、インターネットやスマートフォンが普及した現在、メディアと人間、あるいは技術と社会の関係はどのように変わってきたのだろうか。この授業では、われわれの日常に根ざしたさまざまなメディア技術の成り立ちに目を向け、その将来までを展望する。</p>											
【到達目標】											
<p>近代社会におけるメディア・コミュニケーションの発展が、どのようにして技術的に実現されてきたのかを理解し、それを適切に説明できるようになる。</p> <p>「メディア」と「技術」の相互関係に対する理解を深め、それを適切に説明できるようになる。</p> <p>メディアの技術変容と不可分に関わりながら発展してきたメディア論の基礎的な思考法を理解し、それを適切に説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のスケジュールにもとづいて講義を進める。ただし、講義の進捗状況や受講者の理解度などを踏まえて、若干の変更もありうる。											
第1回 イン트로ダクション：メディア技術史とは何か											
第2回 技術としての書物：紙の本 VS 電子本への古くて新しい回答											
第3回 写真はどこにあるのか：イメージを複製するテクノロジー											
第4回 映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（ 光学装置の開発と視覚理論の発展）											
第5回 映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（ 初期映画）											
第6回 音楽にとっての音響技術：歌声の主はどこにいるのか											
第7回 声を伝える / 技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（ 電信と電話）											
第8回 声を伝える / 技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（ ラジオ）											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

- 第9回 テレビジョンの初期衝動：「遠く (tele) を視ること (vision)」の技術史 (電子式テレビジョン)
- 第10回 テレビジョンの初期衝動：「遠く (tele) を視ること (vision)」の技術史 (機械式テレビジョン)
- 第11回 ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に (初期CATVの考古学)
- 第12回 ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に (ポストメディアとしてのミニFM)
- 第13回 文化としてのコンピュータ：その「柔軟性」はどこからきたのか
- 第14回 開かれたネットワーク：インターネットをつくったのは誰か
- 第15回 誰のための技術史？：アマチュアリズムの行方

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート(60点)、平常点(40%)により評価する。
レポートについては、メディア技術史に関する基礎的な知識に加えて、メディア論の思考法について、総合的な理解ができているかどうかを評価する。事象を論理的に説明できているかどうか、要領よくまとめて書けているかどうか、自分の考えを述べていることができるかどうかを重視する。
平常点については、コミュニケーションペーパーの提出を求め、その内容にもとづいて参加状況の評価をおこなう。

【教科書】

飯田豊編著 『メディア技術史：デジタル社会の系譜と行方 [改訂版]』 (北樹出版、2017年)
ISBN:978-4-7793-0532-0

【参考書等】

(参考書)
水越伸・飯田豊・劉雪雁 『新版 メディア論』 (放送大学教育振興会、2022年) (2022年3月刊行予定。)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前に教科書の該当部分を一読しておいてください。また、授業で使用するプリントは事前に配布することがあるので、当日までに一読しておき、忘れずに持参してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系5

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東北大学 大学院文学研究科 教授 直江 清隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		廣松哲学とドイツ哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>廣松渉は戦後を代表する哲学者の1人である。その独自の哲学は、関係の第一次性、事的世界観、四肢構造、共同主観性などのキー概念で知られ、その扱う主題も認識論、科学論、身体論、価値論、社会哲学など広範囲にわたっている。</p> <p>本講義では廣松哲学における幾つかのトピックスを取り上げ、背景となるドイツ哲学と関連付けながら批判的に討究することにより、彼の哲学体系の一端を解きほぐしていくことを目指す。このことはまた、20世紀後半の日本哲学の動向を理解することに繋がるはずである。</p>											
【到達目標】											
廣松哲学とその基礎概念の構成と背景、そしてその現在の意義を再検討することを通じて、哲学の問題にとり組む姿勢や自ら哲学的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、受講者の関心などに応じて順序や同一テーマの回数などを変えることがある。</p> <p>第1回 20世紀哲学と廣松哲学/『存在と意味』の体系構想 第2回 「もの」から「こと」へ 関数概念と関係主義 第3回 四肢構造論 マッハの現象主義との対峙 第4回 四肢構造論 第5回 視覚的世界と身心の問題 第6回 表情的世界と身心の問題 第7回 表情的世界と共同主観性 第8回 判断論の問題構成 新カント学派 第9回 判断論の問題構成 対象論、現象学など 第10回 判断をめぐる戦前日本哲学の遺構 第11回 学知的反省と当事者意識 第12回 役割行為論 第13回 物象化論の射程 第14回 物象化論の射程 第15回 近代の超克？</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する(80点)。また、授業中の討論への積極的な参加も評価に加える(20点)。レポートで独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

廣松渉 『世界の共同主観的存在構造』(岩波文庫 2017) ISBN:4003812417

廣松渉(熊野純彦編) 『廣松渉哲学論集』(平凡社ライブラリー 2009) ISBN:4582766781

廣松渉 『廣松渉著作集 第1巻~第15巻』(岩波書店 1996)

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系6

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 平岡 隆二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸の宇宙観									
[授業の概要・目的]											
江戸時代の天文暦学者たちは、西洋や中国から伝来する古今東西の天文学知識を手掛かりに、独自の宇宙観・自然認識を練り上げていった。その成立と変遷をたどることで、科学史・思想史・東西交流史についての理解を深める。また、京大が所蔵する関連史料の現地調査に参加し、その整理や分析の手法を学ぶ。											
[到達目標]											
現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義について、史的文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス 2・3．史料と背景 4・5．南蛮学：アリストテレスから和時計まで 6・7．江戸の宇宙観：『天経或問』と気の哲学 8・9．天文方、望遠鏡、梵暦運動、蘭学 10～14．書誌調査とその方法 15．フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（5割）とレポート（5割）。レポートはこの授業に関連する研究や史料にもとづいて作成すること。											
[教科書]											
使用せず、プリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 渡辺敏夫『近世日本天文学史 上・下』（恒星社厚生閣、1986-87年） 嘉数次人『天文学者たちの江戸時代：暦・宇宙観の大転換』（ちくま書房、2016年） その他、授業中にも適宜紹介します。											
（関連URL） http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業の実施形態（対面・オンライン・現地調査等）について、随時最新情報を確認すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系7

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治 学際融合教育研究推進センター 特定助教 清水 雄也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宇宙倫理学入門									
【授業の概要・目的】											
近年，人類の宇宙進出が急速に進展しつつある．地球外への活動領域拡大は，私たちに様々な恩恵をもたらすと同時に，新たな倫理的課題を突きつけることになるだろう．本講義では，人類の宇宙進出に伴う倫理的諸課題と，それらをめぐる倫理的議論の概要を学ぶ．											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の宇宙進出に伴う様々な倫理的課題を理解する． ・ 宇宙倫理的課題に関する哲学者たちの見解や論証を理解する． 											
【授業計画と内容】											
講義は基本的に清水が担当する．基本的に以下の計画にしたがって講義を進める．ただし，進捗に応じて多少変更する場合がある．											
1. 宇宙倫理学の概要 An overview of space ethics											
2. 宇宙倫理学と規範倫理学 Space ethics and normative ethics											
3. 宇宙進出擁護論の神話 Myth-based space advocacy											
4. 有人宇宙活動 Manned Space Program											
5. 宇宙機の事故リスク Accident risks of spacecrafts											
6. 地球環境と宇宙開発 The Earth's environment and space development											
7. スペースデブリ Space debris											
8. 中間セッション#8212#8212期末レポートについて An interim session: some advice for writing the term paper											
9. テラフォーミング Terraforming											
10. 宇宙ビジネス Space business											
11. 安全保障と宇宙開発 National security and space development											
12. 地球外資源開発 Extraterrestrial resource development											
13. ロボットと宇宙開発 Robots and space development											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

14. 人類存続義務

The duty to support the survival of humanity

15. 講義のまとめ

Wrap-up

【履修要件】

必須ではないが、思想文化学系共通科目の倫理学（講義）を履修済みであるか同時期に受講していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。到達目標の達成度（講義内容の理解度）に基づく評価を基本とするが、独自の学習や考察を適切に盛り込んだものには特に高い評価を与える。

【教科書】

伊勢田哲治ほか編 『宇宙倫理学』（昭和堂, 2018）ISBN:9784812217382（講義に持参することが望ましいが、しなくてもよい。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：特に必要ないが、教科書の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。
復習：講義で扱われた問題について自ら考察する。講義時に紹介された文献を読む。

（その他（オフィスアワー等））

・この授業は宇宙総合学研究ユニットの提供する宇宙倫理学教育プログラムの必修科目です。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学 総合文化研究科 准教授 鈴木 貴之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人工知能の哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>1970年代から80年代にかけての第2次人工知能ブーム期には、人工知能の可能性と限界に関して、哲学者を交えた活発な議論が行われていた。そこでは、人間のような知能をもつ人工知能を実現することが不可能だと主張する哲学者も少なくなかった。その後、深層学習などの新たな手法の発展によって、人工知能研究は飛躍的な進展を遂げた。この進展によって、過去の哲学者による批判は克服されたのだろうか。汎用人工知能や人工超知能の実現は時間の問題なのだろうか。</p> <p>この講義では、第2次人工知能ブーム期までの古典的な人工知能研究とそれに対する哲学的な批判を振り返るとともに、その後の人工知能研究の発展をたどり、現在の人工知能にはどのような原理的な課題や限界があるのかを検討したい。同時に、汎用人工知能の実現という文脈を超えて考えたときに、知的道具としての人工知能にはどのような可能性があるかということについても検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・人工知能研究の基本的な発想を理解する。 ・古典的な人工知能研究に対する哲学者の批判を理解する。 ・近年の人工知能研究の主要な手法の概略を理解する。 ・現在の人工知能の課題と限界について理論的な考察ができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>講義では、以下のテーマについて論じる予定である。それぞれのテーマについて、60分ほど講義をした後、30分ほどその内容について参加者全員で議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工知能研究の基本的発想 2. 古典的人工知能研究：演繹的推論 3. 古典的人工知能研究：探索 4. 古典的人工知能研究に対する哲学的批判：意味理解 5. 古典的人工知能研究に対する哲学的批判：関連性 6. 現代の人工知能研究：機械学習 7. 現代の人工知能研究：深層学習 8. 現代の人工知能研究：強化学習 9. 人工知能と人間の心：視覚情報処理 10. 人工知能の人間の心：自然言語処理 11. 人工知能と人間の心：運動制御 12. 現代の人工知能研究の課題と限界：汎用知能は可能か 13. 現代の人工知能研究の課題と限界：身体的重要性 14. 現代の人工知能研究の課題と限界：道具としての人工知能 15. まとめ 											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への参加（30％）とレポートの内容（70％）によって評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

メラニー・ミッチェル 『教養としてのAI講義』（日経BP）ISBN:978-4296000128

谷口忠大 『イラストで学ぶ人工知能概論』（講談社）ISBN:978-4065218846

その他の参考書は授業中に随時紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前の予習はとくに必要ありませんが、上記の参考書に目を通しておくと見通しがよくなると思います。

（その他（オフィスアワー等））

講義の前に最新の授業計画をKULASISの授業ページにアップする予定です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系9

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 教授 齋藤 光			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「科学」と見ること / 見えるもの									
【授業の概要・目的】											
<p>「科学」という自然についての説明形式は、科学革命期（1543～1687）に形作られたということ を前提にして、その科学が「自然」を「見る」ことそして説明することで、「自然」がどのように 見えてくるか、ということ共通のコンセプトとして、前半部では、大地の中で「化石」が見えて くることの歴史を考え、後半部では、19世紀後半に始まる「生命」を「見る」「見せる」技術の開 発を通して、「自然」の一部である「生命」がどのように見えていくのかについて考え学ぶ。 二つのテキストを精読し、関連の一次資料や二次文献をサブテキストとして使用して、より広く 立体的な理解をはかるように演習を進めていく予定である。 用いるテキストは以下のとおりである。 マーティン・J・S・ラドウィック著、菅谷暁・風間敏共訳『化石の意味 古生物学史挿話』（ みすず書房、2013 / 原著1985） リサ・カートライト著、長谷正人監訳、望月由紀訳『X線と映画 医療映画の視覚文化史』（ 青弓社、2021 / 原著1995）</p>											
【到達目標】											
<p>テキストの内容を、そのテキストが含まれた文脈をも理解したうえで、より正確に縮約要約でき るようになる。 「科学」の位置とその影響について理解し説明できるようになる。 「地質学」という認識のありかたと「化石」という観念の出現定着について理解し説明できるよ うになる。 「写真」出現による自然理解・自然説明のあり方の変容について理解し説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンスとイントロダクション（必ず出席ください） 演習担当者が整理した、「科学」「技術」「科学技術」について概説し、そのうえで、演習の進 め方を提案し、テキスト担当者を決める。演習参加者の人数が少ない場合は、複数回担当するこ とがあり、また、多い場合（13人以上）は、サブテキストを適宜使用し担当してもらう。 以下予定 第2回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第一章」 第3回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第二章」 第4回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第三章」 第5回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第四章」 第6回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第五章」 第7回：ここまでのまとめと今後の方向について。 第8回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第1章」 第9回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第2章」 第10回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第3章」</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

第11回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第4章」
第12回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第5章」
第13回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第6章」
第14回：『化石の意味』と『X線と映画』に関してまとめ 。それぞれのテキストのポイントに関して考え問題点を整理する。
第15回：『化石の意味』と『X線と映画』に関してまとめ 。科学が「自然」を「見る」ことそして説明することで、「自然」がどのように見えてくるか、について考え問題点を整理する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

テキストの担当部分の報告等；40%、議論やディスカッションへの積極的参加；15%、演習を踏まえての最終レポート提出；45%
上は、現在の予定である。最終的には演習内で方法等について提示する。

【教科書】

マーティン・J・S・ラドウィック 『化石の意味 古生物学史挿話』（みすず書房、2013）ISBN: 9784622077671
リサ・カートライト 『X線と映画 医療映画の視覚文化史』（青弓社、2021）ISBN:9784787274434
授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
演習時間内で提示予定。

【授業外学修（予習・復習）等】

演習がスタートするまでに、ピーター・J・ボウラー著、鈴木善次他訳『進化思想の歴史（上・下）』（朝日新聞社（朝日選書）、1987年）にざっと目を通しておくのが望ましい。
また、ベンヤミンの「複製技術時代の芸術作品」も検討しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 教授 齋藤 光			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「科学」と帝国 / 植民地									
[授業の概要・目的]											
<p>「科学」あるいは「科学技術」が、欧米帝国による欧米外地域の植民地化と支配において、また、後発帝国である日本によるアジア地域の植民地化と支配において、どのような意味やどのような役割を持ったのかについて考える。あるいは、そうした主題を考える場合の基本的な構えについて学ぶ。</p> <p>大きくとらえると、科学・科学技術が、西欧諸国の世界支配に重要な役割を果たすのは18世紀からともいえるし、じつは大航海時代の始まりから知や技術が一定の役割を担っていたとも考えることも出来る。とはいえ、科学・科学技術が、ネットワーク的な支配の重要要素となっていたのは19世紀に入ってからであろう。1960年以降の脱植民地の動きの広がりの中でも、グローバルシステムとしての科学技術は、基本的には旧宗主国に中心を置く機能として存在し働いているとも考えることも可能である。</p> <p>こうした現状を前提としながら、この演習では、19世紀あるいは20世紀前半に「科学」あるいは「科学技術」が帝国 / 植民地といかに関係していたかに関して、テキストの精読を通してアプローチしていく。また、関連文献をサブテキストとすることで、より広く立体的な理解を測るように演習を進めていく予定である。</p> <p>用いるテキストは以下のいずれかにする予定である。</p> <p>デイヴィッド・アーノルド著、見市雅俊訳『身体の植民地化 19世紀インドの国家医療と流行病』（みすず書房、2019 / 原著1993）</p> <p>アロン・S・モーア著、塚原東吾監訳、三原芳秋ほか訳『「大東亜」を建設する 帝国日本の技術とイデオロギー』（人文書院、2019 / 原著2013）</p>											
[到達目標]											
<p>テキストの内容を、そのテキストが含まれた文脈をも理解したうえで、より正確に縮約要約できるようになる。</p> <p>「科学」や「科学技術」と世界システムの関係について理解し説明できるようになる。</p> <p>ある個別科学・科学技術が帝国 / 植民地関係でいかに機能したかについて理解し説明できるようになる。</p> <p>現在のグローバルな科学・科学技術といわゆる「植民地科学」の関係について理解し説明できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：ガイダンスとイントロダクション（必ず出席ください）</p> <p>演習担当者が整理した、「科学」「技術」「科学技術」について概説し、そのうえで、演習の進め方を提案し、テキスト担当者を決める。演習参加者の人数が少ない場合は、複数回担当することがあり、また、多い場合（13人以上）は、サブテキストを適宜使用し担当してもらう。</p> <p>第2回～第14回：上述のメインテキストのいずれか、または、両者を読む</p> <p>上述のメインテキストを精読し、関連する一次資料や二次文献をサブテキストとして、セクソロ</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

ジェーや性科学について検討してゆく。毎回のテキスト担当者は、レジユメを用意してテキストの内容について解説検討批判する。また、論点となる要素を抽出し提示する。その後、参加者で相互に議論/ディスカッションする。
第15回：まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

テキストの担当部分の報告等；40%、議論やディスカッションへの積極的参加；15%、演習を踏まえての最終レポート提出；45%
上は、現在の予定である。最終的には演習内で方法等について提示する。

【教科書】

テキストはプリント配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
演習時間内で提示予定。

【授業外学修(予習・復習)等】

事前の予習は必要ない。
演習スタート後の予習復習に関しては、そのつど指示する予定である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系11

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学における価値中立性の理念 The value-free ideal for science									
[授業の概要・目的]											
<p>科学が価値中立的であるべきだという理念は現在でも大きな影響力を持つ反面、その理念がそもそも意味をなすのか、意味をなすとしても価値中立性を目指すのは望ましいことなのかなど、様々な観点から検討を要する理念でもある。こうした科学と価値の関係は21世紀の科学哲学の主要問題ともなっている。今回の演習ではダグラスの古典的著作を手がかりに、この問題について理解することを目的とする。</p> <p>The ideal that science should be value-free is still influential nowadays; however, this ideal is at the same time controversial in that whether the ideal makes sense at all, and whether the pursuit of the ideal is desirable if it makes sense. Such an issue of the relationship between science and value is one of focal issues in 21st century philosophy of science. In this class we use Douglas's classical book to understand the issue.</p>											
[到達目標]											
<p>ダグラスの科学の価値中立性に関する考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。</p> <p>To understand Douglas's ideas on the value-free ideal for science, and to be able to examine her position critically.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下のテキストの第三章以降を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Douglas, Heather E. (2018) Science, Policy and the Value-free Ideal. University of Pittsburgh Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト10ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当(13回) まとめ(1回)</p> <p>We read the following book (from chapter 3) by turns, and discuss the content. Douglas, Heather E. (2018) Science, Policy and the Value-free Ideal. University of Pittsburgh Press.</p> <p>The basic format of the class is as follows: we read approximately 10 pages of the reading in one meeting, and have some discussion. A student (or a team of students) is responsible for a presentation that introduces the reading to the meeting (the assignment is done beforehand).</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

The class structure is:

Introduction (1 meeting)

Student presentations (13 meetings)

wrap-up (1 meeting)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。

発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準になる。

The evaluation will be based on the class presentation(s) and the final paper (50% each). The points of view of the evaluation are: correct understanding of the assigned part and its appropriate introduction for class presentation(s), and correct understanding of the chosen part and its appropriate critical examination for the final paper.

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布

Relevant parts of the above-mentioned book will be distributed in the class.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

All the participants are expected to read the assigned reading before each class. The presenter prepares a several A4 pages of handout that summarizes the assigned part before the class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系12

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		創発の思想 Philosophy of emergence									
【授業の概要・目的】											
<p>創発的性質、すなわち部分に還元されないような全体の持つ性質は、さまざまな科学分野の中で取り上げられてきた考え方であり、科学哲学者たちもこの問題について考えてきた。今回の演習では創発概念の歴史的背景を知り古典的な論文を読むことで、この概念について哲学者が何を問題にし、どういうことを提案してきたのかの理解を目指す。</p> <p>Emergent properties, i.e. properties of a whole that are not reducible to its parts, is a notion entertained in many different scientific fields, and philosophers of science also have paid attention to it. In this class we aim at getting understanding as to what philosophers has been thinking about this notion and what they propose, by knowing historical background of the notion and by reading some classical papers.</p>											
【到達目標】											
<p>創発の哲学的議論において何が論じられているかを理解し、哲学者たちの立場を批判的に検討できるようにする。</p> <p>To understand what are the issues discussed in philosophical arguments on emergence, and to be able to examine positions of philosophers critically.</p>											
【授業計画と内容】											
以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。											
<p>Bedau, M. and Humphreys, P eds. (2008) Emergence: Contemporary Readings in Philosophy and Science. The MIT Press.</p> <p>具体的には以下のような論文（抜粋含む）を読むことを考えている</p> <p>B.P. McLaughlin "The rise and fall of British emergentism"</p> <p>C. Hempel and P. Oppenheim "On the idea of emergence"</p> <p>W. C. Wimsatt "Aggregativity: reductive heuristics for finding emergence"</p> <p>P. Humphreys "How properties emerge"</p> <p>J. Kim "Making sense of emergence"</p> <p>D. C. Denett "Real patterns"</p> <p>P.W. Anderson "More is different: broken symmetry and the nature of the hierarchical structure of science"</p> <p>A. Assuad and N. H. Packard "Emergence"</p> <p>J. Forder "Special sciences (Or: the disunity of science as a working hypothesis)"</p>											
<p>基本的に一回の授業でテキスト10ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

イントロダクション(1回)
学生による発表担当(13回)
まとめ(1回)

We read articles from the following anthology by turns, and discuss the content.

Bedau, M. and Humphreys, P eds. (2008) *Emergence: Contemporary Readings in Philosophy and Science*. The MIT Press.

Current plan is to read the following papers (including excerpts):

B.P. McLaughlin "The rise and fall of British emergentism"

C. Hempel and P. Oppenheim "On the idea of emergence"

W. C. Wimsatt "Aggregativity: reductive heuristics for finding emergence"

P. Humphreys "How properties emerge"

J. Kim "Making sense of emergence"

D. C. Denett "Real patterns"

P.W. Anderson "More is different: broken symmetry and the nature of the hierarchical structure of science"

A. Assuad and N. H. Packard "Emergence"

J. Forder "Special sciences (Or: the disunity of science as a working hypothesis)"

The basic format of the class is as follows: we read approximately 10 pages of the reading in one meeting, and have some discussion. A student (or a team of students) is responsible for a presentation that introduces the reading to the meeting (the assignment is done beforehand).

The class structure is:

Introduction (1 meeting)

Student presentations (13 meetings)

wrap-up (1 meeting)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (*Philosophy of Science: A Very Short Introduction*) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。

発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

The evaluation will be based on the class presentation(s) and the final paper (50% each). The points of view of the evaluation are: correct understanding of the assigned part and its appropriate introduction for class presentation(s), and correct understanding of the chosen part and its appropriate critical examination for the final paper.

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

[教科書]

使用しない

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布

Relevant parts of the above-mentioned book will be distributed in the class.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

All the participants are expected to read the assigned reading before each class. The presenter prepares a several A4 pages of handout that summarizes the assigned part before the class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30(オンライン授業となった場合は設けない)。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。</p> <p>このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。</p> <p>また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理学とは何を学ぶ学問か 形式言語 最小命題論理の - 導入規則および除去規則 最小命題論理の \wedge、\vee - 導入規則および除去規則 最小命題論理の問題演習 遠回りのない証明 量子子と最小述語論理 最小述語論理の - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の \rightarrow - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の問題演習 形式的な自然数論 原始再帰的関数と"$2+2=4$"の証明 再帰関数の数値的表現可能性 総合演習 形式的な論理学と言語の哲学 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』 (東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』 (日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』 (Dover)

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/ (授業 Blog)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1 or 2 日前)にwebsite (PandA) にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
【授業の概要・目的】											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
【到達目標】											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを旨とする。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。最後に、論理学の話題として、授業の進展にあわせながら、受講生の希望を踏まえ発展的な課題を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2 意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性 プラヴィッツの「反転原理」 ダメットと証明の正規化可能性 「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理 直観主義論理の問題演習 排中律と古典論理 古典論理における証明・問題演習 古典論理と真理表 古典論理と完全性定理 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介1)

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介2)

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介3)

[履修要件]

前期の演習「論理学1」を履修すること

[成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』(Dover)

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系15

科目ナンバリング	G-LET32 7M383 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	科学哲学科学史セミナー										
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．											
[到達目標]											
論文作成のための基礎的な力を身につける．											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う．（第1回～第15回） 研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（出席および発表等）によって評価する．											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する．											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系16

科目ナンバリング	G-LET32 7M383 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	科学哲学科学史セミナー										
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．											
[到達目標]											
論文作成のための基礎的な力を身につける．											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う．（第1回～第15回） 研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（出席および発表等）によって評価する．											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する．											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系17

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		米・中東関係の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については（当事国である米国においてさえ）正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. 中東の近代：Western impactから主権国家システムの生成（2回） 3. 西側統合政策の展開と挫折（1950年代）（4回） 4. オフショア・バランスの時代（1960-80年代）（3回） 5. 覇権的政策の盛衰（1990年代以降）（4回） 6. まとめとフィードバック（1回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）

五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系18

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食をめぐる研究の方法											
2 明治大正期の食											
3 アジア太平洋戦争までの食											
4 戦後の食											
5 牛乳の歴史学											
6 品種改良の歴史学											
7 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系19

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系20

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解しその視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1-2回 メディア社会とは何か 第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第4回 メディア都市の成立 第5回 出版資本主義と近代精神 第6回 大衆新聞の成立 第7回 視覚人間の国民化 第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第9回 ラジオとファシスト的公共性 第10回 トーキー映画と総力戦体制 第11回 テレビによるシステム統合 第12回 情報化の未来史 第13回 脱・情報社会へ 第14回 総論・試験 第15回 フィードバック											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

[成績評価の方法・観点]

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

[教科書]

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）
佐藤卓己『メディア論の名著30』（ちくま新書）ISBN:9784480073525（メディア文化学を学ぶ上で基本となる文献を紹介、解説している。）

[参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）
佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）
佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）ISBN: 9784004317647（現代のメディア・リテラシーの実践に向けて。）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)
<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

[授業外学修（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史 新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。各メディアについて『メディア論の名著30』の関連文献を中心に、発展的な学習を心掛けること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系21

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		物語と文化財、そして美術									
【授業の概要・目的】											
<p>近世から近代へと移行する中で、神話や物語は再編され、名所・旧跡は文化財として新たに価値づけられた。そのなかでも神武創業や南朝正統論などは典型であるが、その他、前近代に源平の戦いの表象にあった宇治には20世紀に国風文化の貴族や「源氏物語」の女性のイメージが付与された。近代天皇制が形成される中で、天皇陵や御物など「万世一系」を視覚化し、国民道徳をあらわす史蹟が生み出された。南画家の富岡鉄斎は明治維新から大正期まで文人として生きるが、彼の絵画は天皇崇敬の国民道徳を視覚化するものであった。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「物語と文化財、そして美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語と文化財 ・ 「歴史まちづくり法」と宇治 ・ 「歴史まちづくり法」と向日町 ・ 世界遺産と百舌鳥・古市古墳群 ・ 大山古墳と「仁徳天皇陵古墳」の名称 ・ 神武天皇陵の近現代 ・ 名教的文化財 ・ 南朝史蹟 ・ 赤穂浪士と旧跡 ・ 天皇陵の明治維新 ・ 「万世一系の神話」と天皇陵 ・ 「万世一系の神話」と御物 ・ 富岡鉄斎と明治維新 ・ 鉄斎が描いた南朝史蹟 ・ 鉄斎が描いた天皇行幸 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

高木博志ほか『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

高木博志『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

[授業外学修（予習・復習）等]

京都において、「物語と文化財、そして美術」に関わる巡見を希望者とする。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系22

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 人間科学研究科教授 藤目 ゆき			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		占領軍被害の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>連合占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い年月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。</p> <p>(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。</p> <p>(3)朝鮮戦争時代の日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入ることによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は以下の計画で進める。講義形式の授業と、授業内で指定した文献に関するディスカッション等を組み合わせながら進める予定である。</p> <p>各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学ぶ（全15回）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．研究の意義と方法 2．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害 3．占領軍労務動員と労働災害死傷 4．暴行・傷害・殺人 5．軍事演習被害・朝鮮戦争被害 6．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義 											
【履修要件】											
特になし											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。

[教科書]

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』（六花出版、2021年）
適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』（六花出版、2021年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容に関わる文献を授業外で読んでくること。文献リストについては授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

連絡は電子メール(msgmt@kansai-u.ac.jp)で受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		京都らしさと文化、社会を描く美術									
【授業の概要・目的】											
<p>日露戦後の20世紀には社会問題が浮上し、庶民の生活や労働を描こうとする画家たちが現れる。京都では第二高等女学校で教えながら貧困の中、市井の庶民を描いた千種掃雲、その弟子で花街の雇仲居や遊女を題材とした梶原緋佐子、奈落の吉原遊女に向き合った秦テルヲなど、京都画壇の周縁の新しい動向を取り上げる。同じように京都の花街・遊廓の買春の現実に向き合った竹久夢二・野長瀬晩花も考える。また大正期の民芸運動は、明治以来の古社寺保存法などで政府が困り込んだファイン・アートからはこぼれ落ちたものに光をあてた。柳宗悦・河井寛次郎・寿岳文章らの営みを紹介したい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「京都らしさと文化、社会を描く美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日露戦後の社会 ・ 第一次世界大戦後の大衆社会 ・ 社会を描く ・ 京都と遊廓・花街 ・ 「千種掃雲日記」を読む ・ 梶原緋佐子が描く社会 ・ 秦テルヲと花街・遊廓 ・ 国画創作協会の若き才能 ・ 鴨東カルチャータン ・ 京都と舞妓表象 ・ 大正期の祇園もの、南蛮憧憬 ・ 柳宗悦と民芸運動 ・ 寿岳文章と『紙漉村旅日記』 ・ 芹沢銈介と染織工芸 ・ 河井寛次郎 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「京都らしさと文化、社会を描く美術」に関わる巡見を希望者とする。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系24

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都大学百二十五年史」を読む 1									
【授業の概要・目的】											
1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、創立から敗戦までを対象とする。											
【到達目標】											
近代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本近代史史料を読み込む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 京都帝国大学の創立 3 大学像の模索 4 「大学自治」をめぐって 5 大正期の高等教育改革と諸制度の整備 6 学生の諸相 7 社会運動の展開 8 滝川事件(1) 9 滝川事件(2) 10 戦時下の諸動向(1) 11 戦時下の諸動向(2) 12 兵役と学生 13 戦争末期の状況 14 敗戦 15 まとめ(フィードバック) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。											
【教科書】											
使用しない											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

(その他（オフィスアワー等）)

集中講義なので「オフィスアワー」は特に設けません。質問等がある方はその場で訊ねるようにしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ビデオゲームと芸術の理論									
【授業の概要・目的】											
<p>さまざまな現代の文化のなかにあって、ビデオゲーム（コンピュータゲーム、デジタルゲーム、電子ゲーム、テレビゲーム、略してゲーム）は、産業規模の点でも創造性の点でもきわめて重要度の高い領域のひとつである。ビデオゲームの際立った特徴のひとつは、いわゆるインタラクティブ性（受け手が作品のありかたに能動的に関与できること）にある。</p> <p>この講義では、ほかの芸術形式や文化形式に対して適用されてきた諸理論をビデオゲームにあてはめることを通して、ビデオゲームというメディア（表現媒体）ならではの特徴を考える。またそうしたメディア上の特徴と、ビデオゲームをめぐる文化実践の現状（たとえば批評や歴史記述の成り立ちづらさ）にどれだけ関係があるのか／ないのかについても考えたい。</p> <p>扱う題材はビデオゲームだが、ビデオゲーム以外の文化の研究にも応用できるような内容にする予定。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・芸術や文化に関する諸理論を理解する。 ・ビデオゲームならではの特徴を考える。 ・あるメディアならではの特徴を考えることがどういうことなのかを理解する。 ・メディアのありかたと文化実践のありかたの関係について考える。 											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 初期の歴史と二面性 第3回 初期の歴史と二面性 第4回 ビデオゲームと記号の理論 第5回 ビデオゲームと記号の理論 第6回 ビデオゲームとフィクションの理論 第7回 ビデオゲームと物語の理論 第8回 ビデオゲームと物語の理論 第9回 ビデオゲームと感情の理論 第10回 ビデオゲームと様式の理論 第11回 ビデオゲームと狭義の美学 第12回 ビデオゲームと制度の理論 第13回 ビデオゲームと遊びの理論 第14回 ビデオゲームを語ること 第15回 まとめ（フィードバック）											
<ul style="list-style-type: none"> ・各回とも、前半で理論を説明して、後半でそれをビデオゲームに適用するという順序を進める予定。 											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

- ・授業の進み具合によって、一部のトピックを取り上げない可能性がある。
- ・リアクションペーパーの質問・コメントを取り上げる時間を毎回設けるので、予定通りに進まない可能性もある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：100%

- ・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。
- ・質問やコメントは次回の授業で取り上げることがある。
- ・リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

各回の理論については授業内では十分な紹介ができない。
参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。
いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花と久生十蘭									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花と久生十蘭は明治～昭和に活躍した作家である。この授業では、泉鏡花や久生十蘭の作品のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。また、随時関連資料の紹介や考察も行う。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。PandAを使うので教室にPCを持参すること。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花・久生十蘭に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)</p> <p>第2回 鏡花文学における「魔」の女性像 片輪車</p> <p>第3回 鏡花文学における「魔」の女性像 瀧夜叉と飛天夜叉</p> <p>第4回 鏡花文学における「魔」の女性像 安達ヶ原の一つ家と前の世</p> <p>第5回 鏡花文学における「魔」の女性像 通り魔</p> <p>第6回 鏡花文学における「魔」の女性像 美しい女の通り魔</p> <p>第7回 久生十蘭の生涯と作品。泉鏡花から久生十蘭へ</p> <p>第8回 久生十蘭「黄泉から」の材源</p> <p>第9回 「黄泉から」の構想</p> <p>第10回 久生十蘭「生霊」の構想</p> <p>第11回 「湖畔」の時代背景</p> <p>第12回 「湖畔」の材源</p> <p>第13回 「湖畔」のヴァリエーション</p> <p>第14回 一人称小説としての「湖畔」</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>なお、随時関連資料の紹介や考察も行う。また、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・意見の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

PandAのリソースに資料や論文、講義録画等を置く。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義・論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を記入し、PandAに提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花と久生十蘭									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花と久生十蘭は明治～昭和に活躍した作家である。この授業では、泉鏡花・久生十蘭をめぐって、書誌や他作家との関係、代表作のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。PandAを使うので教室にPCを持参すること。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花や久生十蘭に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と文学、単行本書誌について(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)</p> <p>第2回 泉鏡花単行本書誌の諸問題 概要</p> <p>第3回 泉鏡花単行本書誌の諸問題 特論</p> <p>第4回 泉鏡花と太宰治</p> <p>第5回 久生十蘭の生涯と文学。「母子像」の背景</p> <p>第6回 「母子像」の世界</p> <p>第7回 久生十蘭「新西遊記」と『西藏旅行記』</p> <p>第8回 「新西遊記」と平凡社『大百科事典』</p> <p>第9回 「新西遊記」の独自性</p> <p>第10回 「新西遊記」草稿と関連資料</p> <p>第11回 久生十蘭「重吉漂流記」の典拠と主題</p> <p>第12回 久生十蘭「藤九郎の島」の典拠と主題</p> <p>第13回 久生十蘭「ボニン島物語」の典拠</p> <p>第14回 「ボニン島物語」の主題</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・意見等の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

PandAのリソースに資料や論文、講義録画等を置く。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義・先行論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見等をPandAに提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立教大学 文学部 教授 上田 信			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		史的システム論に基づく東ユーラシア圏域史									
【授業の概要・目的】											
<p>人類はいま歴史的な転換点に立っている。地球温暖化に起因する異常気象、COVID-19などのパンデミック、深刻な経済格差、民主主義の機能不全と権威主義の台頭、さらに全人類の人口がまもなく減少に転ずると予測されている。私たちはよりよい一歩を踏み出すために、長期に亘る歴史的な展望を持つ必要に迫られている。</p> <p>本講義では展望を得るための方法論として「史的システム論」を提示し、日本が立地する空間軸として「東ユーラシア圏域」を措定する。現在を相対化する時間軸として16世紀から20世紀までを範囲として、下記のトピックを取り上げて検討する。</p> <p>明代民間知識人が観た日本 人口の視点で見た17世紀以降の中国・朝鮮・日本 ペストをめぐるアジアの歴史</p>											
【到達目標】											
地球全体の歴史を俯瞰する視点（鳥の目）と地域社会の歴史から仰視する視点（虫の目）とを架橋しうる知的な跳躍力を身につけ、自らの思索と実践に活かせるようにする。歴史的に生起するさまざまな事象について、モノ・ヒト・イミの次元から、全体的に分析していく力を養う。											
【授業計画と内容】											
第I部（初日）史的システム論と東ユーラシア圏域											
第1回 システム論的な思考法											
第2回 モノ・ヒト・イミの3つの次元											
第3回 東ユーラシア圏域と生態環境											
第II部（2日目）明代民間知識人が観た日本											
第4回 ヒト（人物）の歴史											
第5回 16世紀の海域アジア											
第6回 明代知識人の諸相											
第7回 鄭舜功『日本一鑑』を読む											
第III部（3日目）人口から観た17世紀以降の中国・朝鮮・日本											
第8回 歴史人口学的研究の方法											
第9回 18世紀中国の人口爆発はなぜ起きたのか											
第10回 20世紀から現在にいたる中国人口史											
第11回 朝鮮と日本の人口史											
第4部（4日目）ペストをめぐるアジアの歴史											
第12回 雲南の風土病から世界的パンデミックになるまで											
第13回 関東軍731部隊による細菌戦											
第14回 戦争における責任について考える											
総括											
第15回 人類史上の転換期における歴史学の役割											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

本講義は担当者（上田信）の特異な歴史観に基づいて展開されるため、事前に下記の教科書・参考書を読んでおくことが期待される。なお、直接に講義に関する部分については、抜粋して事前にネット経由で送付する予定。

[成績評価の方法・観点]

評価60%：講義への参画度。講義では質疑応答・討議の時間を多く設ける。これらの機会での積極的な発言や参与を評価する

評価40%：レポート。本講義で展開される方法論に基づいて、各自の問題関心を展開し、レポートにまとめる。

[教科書]

上田信『歴史を歴史家から取り戻せ！ 史的な思考法』（清水書院、2018年）ISBN:978-4-389-50084-9（史的システム論を概説しています）

上田信『岩波講座世界歴史 12巻』（岩波書店、2022年近刊）（上田担当の「展望A」で、15～18世紀の東ユーラシア圏域の歴史を取り上げています。）

上田信『人口の中国史 先史時代から19世紀まで』（岩波書店、2020年）ISBN:9784004318439（本講義と直接関わる箇所は第4章～第6章。なお電子書籍版は間違いが修正されている。）

上田信『ペストと村：七三一部隊の細菌戦と被害者のトラウマ』（風響社、2009年）ISBN:9784894891357（フィールドワークに基づく著作。史的システム論の実践例となる。）

講義と直接に関わる部分を抜粋して、事前にネット経由で送付する。事前に読んでおくこと。講義のあとでも構わないが、書籍の全体を読了することが望ましい。

[参考書等]

（参考書）

上田信『中国の歴史9 海と帝国 明清時代』（講談社、2021年）ISBN:978-4-06-522777-0（学術文庫版。ハードカバー版（2005年出版）の誤りを修正し「あとがき」を加筆。）

上田信『シナ海域 屋気楼王国の興亡』（講談社、2013年）ISBN:978-4-06-218543-1（源義満（足利義満）・鄭和・王直・鄭成功などを取り上げる。海域アジア史の列伝。）

上田信『東ユーラシアの生態環境史』（山川出版社、2006年）ISBN:978-4-634-34830-1（モノ（茶葉・銅）から見た東ユーラシア圏域の歴史。）

講義のあとに読んでおくことが期待される。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に送付するテキストを集中講義の前に読了し、質問・コメントができるように準備しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

電子メール <ueda@rikkyo.ac.jp>

件名の冒頭に必ず【京都大学集中講義】と明示すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系29

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史研究事始									
【授業の概要・目的】											
<p>概要：講師の専門（近現代日本の社会運動史、社会思想史、史学史）に基づく、歴史研究の導入教育。</p> <p>目的：講師が歴史研究のプロセスを受講者に開示する。歴史研究における問題意識・目的・方法などを受講者が批判的に検討することで、自身の歴史研究や社会認識の糧にもらうことが本講義の目的である。なお、本講義は必ずしも他分野の歴史研究の参考となるわけではないことをご理解いただきたい。</p>											
【到達目標】											
歴史研究の意義を理解し、その目的・方法を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テーマ設定、先行研究の整理と分析 3 施設見学と資料調査1 4 施設見学と資料調査2 5 施設見学と資料調査3 6 施設見学と資料調査4 7 その他の資料調査（古書、聴き取り） 8 収集資料の整理・保存と研究活用 9 資料の読解1 10 資料の読解2 11 資料の読解3 12 歴史を叙述する1 13 歴史を叙述する2 14 歴史を叙述する3 15 まとめ <p>なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>											
【履修要件】											
必須ではないが、歴史研究に従事する意志があればありがたい。受講者の人数によっては別途選抜につき検討する。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート(40点)と期末レポート(40点)、平常点(20点)等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系30

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学 史料編纂所 准教授 藤原 重雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世絵画史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>前近代日本史研究の基礎に、文書・記録等の文献史料の読解があることは疑いない。一方、過去の人々の営み全体を対象とする歴史学にとって、文献の精緻な読み解きそれ自体は方法であり目的とはいえ、多様な素材を対象に取り込んで、豊かな歴史の諸相を照らし出すこともまた課題である。</p> <p>本講義では、主に12～16世紀の絵画作品から異なるジャンルの事例を取り上げ、絵画としての特性を踏まえた上で、歴史史料としてどのような分析が可能なのか、これまでの研究の蓄積を紹介しながら、新しい課題にも取り組みたい。日本中世史に関する専門的な講義であるが、視覚的な情報の領域・比重が高まる現代社会においても共通する論点のあることを意識する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本中世史研究における史料論の現状を理解する。 ・史料批判を基礎とした歴史学の方法について理解する。 ・視覚的イメージを批判的に捉える態度を習得する。 ・図書館・博物館・美術館およびデジタル的な学術環境について、現状を把握し将来像を展望する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のジャンルから、実際に展示で作品を見る機会がある、現地を各自で見学することが可能な事例などを優先して扱う予定。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2・3回 絵巻物と『常民生活絵引』 第4・5回 肖像画 第6・7回 宮曼荼羅・荘園絵図 第8・9回 掛幅縁起絵と説話・地理 第10・11回 参詣曼荼羅 第12・13回 洛中洛外図屏風 第14回 好古図譜『聆涛閣集古帖』とデジタル公開 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

・レポート。到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

教科書は使用しない。講義にあたってはプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

黒田日出男『増補 姿としぐさの中世史』(平凡社ライブラリー、2002年) ISBN:4582764452(「画像の歴史学」を収録)

石上英一編『日本の時代史 30』(吉川弘文館、2004年) ISBN:4642008306(藤原「中世絵画と歴史学」を収録)

藤原重雄『史料としての猫絵』(山川出版社、2014年) ISBN:9784634546912

ピーター・バーク(諸川春樹訳)『時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究』(中央公論美術出版、2007年) ISBN:9784805505489

吉田ゆり子・八尾師誠・千葉敏之編『画像史料論 世界史の読み方』(東京外国語大学出版会、2014年) ISBN:9784904575321

個別には講義にて紹介する。

(関連URL)

<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fujiwara/lecture.html>(過去の講義の参考文献などを掲載しています。)

[授業外学修(予習・復習)等]

・短期間の集中講義ですので、参考書の上2件に事前に目を通して頂くと、理解がしやすいかと思います。

・キャンパスメンバーズの権利を行使して、京都国立博物館・奈良国立博物館で平常展(絵画は定期的に展示替えをしており、観覧無料です)を見る習慣を身につけて下さい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系31

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 木下 千花			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		サイレント映画史へのアプローチ									
【授業の概要・目的】											
<p><サイレント映画史へのアプローチ> 19世紀末から1930年前後まで映画は「サイレント」だった。映画が芸術として、大衆娯楽として、プロパガンダとして、グローバルなビジネスとして、目覚ましい発展と変容を遂げたのはサイレント時代である。この授業では、「ニューメディア」だったサイレント映画の歴史を紹介するとともに、興行の場（映画館）や他の芸術・メディアとの関係にも注目する映画史の最新のアプローチに触れる。授業は講義と演習を組み合わせ、履修者は毎週必ず配布されたテキスト（英語を含む）を読み、予習をしたうえで議論に積極的に参加することを前提とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・初期映画、サイレント映画という歴史的な表象形式へのリテラシーを得る。 ・フィルム・アーカイブの活動と連動し一次資料に依拠した「新しい映画史」のアプローチを学ぶ。 ・映画と他のメディアとの関係についての考えを深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>< 授業計画と内容 ></p> <p>Part 1 初期映画というパラダイム 第1回 イントロダクション：「初期映画・サイレント」と「後期映画」 第2回 映画「誕生」以前：スクリーン・プラクティス 第3回 アトラクションの美学 第4回 ポーターとグリフィス</p> <p>Part 2 「映画」の誕生とオルタナティヴ 第5回 「長編映画」の登場、アメリカ映画産業v.合州国 第6回 1910年代ヨーロッパ映画というオルタナティヴ 第7回 サイレント映画の演技は「誇張されている」か？ 第8回 日本映画の1910年代：資料分析演習</p> <p>Part 3 1920年代アヴァンギャルド 第9回 カリガリからヒトラーへ？ 第10回 ソヴィエト・モンタージュ 第11回 「フォトジェニー」とアヴァンギャルド</p> <p>Part 4 映画史研究の諸相 第12回 アーカイブとテクノロジー 第13回 サイレント映画館の音 第14回 サイレント・コメディと女性パイオニア 第15回 期末論文テーマ発表</p>											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

中間小論文または発表(30%)、期末論文(60%)、授業への積極的な参加(10%)
期末論文については到達目標の達成度に基づいて採点する。とりわけ、画面・音響や語り、物語の構造など形式面に対する気づきと独自性・新規性を評価する。

【教科書】

PandA (e-learning) を活用し、必読のテキストおよび資料をPDFファイルで配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

講読資料配付および情報伝達のためPandA (e-learning) を活用する。履修者は予習をしたうえで議論に積極的に参加することを前提とする。授業時間以外に毎週30-120分程度のサイレント映画鑑賞が必要になる。鑑賞作品や方法については第一回目の授業で指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 木下 千花			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		スター/キャラクター/セレブリティ									
【授業の概要・目的】											
<p><スター/キャラクター/セレブリティ></p> <p>本授業ではまず、映画「スター」を映像作品と社会の結節点としてとらえ、基本文献の購読を通してカルチュラル・スタディーズ、映画史研究、フェミニズム、クィア理論などの方法論を学ぶ。ケーススタディとしては女優・原節子を取り上げ、代表的な主演作品を分析する。さらに、漫画やアニメーションのキャラクター論、パフォーマンス論や身体論など、現在の芸術・メディア研究における問題系とスター研究の接続を行う。期末の課題としては、学生各自が興味を持った「スター」を一人選び、映像作品とメディアの言説を調査・分析して論文にまとめる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・「スター」研究の古典的名著を読むことで、アイドル、セレブリティ、キャラクター研究にも通じるメディアによる構築物としての「人物」分析の技法を習得する。 ・自ら対象を見つけ、仮説を立て、資料収集と分析を行って検証する力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>講義と演習形式を組み合わせ、英語・日本語の文献講読を行う。翻訳文献の場合、原語にアクセス可能な者は参照すること。</p> <p>Part 1 スター研究：The Beginning</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 エドガール・モラン『スター』；ロラン・バルト</p> <p>第3回 リチャード・ダイアー『映画スターの<リアリティ>』、序+第1部</p> <p>第4回 ダイアー『映画スターの<リアリティ>』、第2部</p> <p>第5回 ダイアー『映画スターの<リアリティ>』、第3部</p> <p>Part 2 スター研究の応用可能性：原節子</p> <p>第6回 女優とナショナリズムの言説</p> <p>第7回 占領とジェンダー</p> <p>第8回 クィアな観客性と原節子的問題</p> <p>Part 3 スター研究の接続可能性</p> <p>第9回 スターと人種問題</p> <p>第10回 二次元へ：キャラクター/キャラとメディアミックス(1)</p> <p>第11回 二次元へ：キャラクター/キャラとメディアミックス(2)</p> <p>第12回 スター研究の現状とセレブリティ研究</p> <p>第13回 パフォーマンス論としての俳優論</p> <p>第14回 期末論文テーマ発表</p> <p>第15回 期末論文テーマ発表</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加：10%、授業内での発表もしくは中間小論文：30%、期末論文：60%。発表・論文については到達目標の達成度に基づいて採点する。授業参加では積極性、発言の独自性と批判精神を評価する。

【教科書】

リチャード・ダイアー 『映画スターの<リアリティ> 拡散する「自己」』（青弓社）ISBN: 4787272098（教科書の入手法については、第1回目の授業で指示する。）
PandA（e-learning）を活用し、教科書以外の必読のテキストおよび資料はPDFファイルで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講読資料配付および情報伝達のためPandA（e-learning）を活用する。履修者は授業開始前から計画してテキストを読み、予習をしたうえで議論に積極的に参加することを前提とする。授業時間以外に映画を鑑賞する必要がある。視聴方法などについては第1回授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コンピューティングの技術文化史									
【授業の概要・目的】											
<p>本特殊講義では、情報学の古典的文献を取り上げながら、各年のテーマに沿って、現在のコンピューティングのスタイルがどのようにできあがってきたのか、それに関わった人々は、どのような技術的背景・知的状況の中で思考し、技術的なアイデアを生み、社会の中で実装につなげてきたのかを考えます。</p> <p>本年度のテーマは「戦争とコンピュータ」です。</p> <p>扱う資料はまずは文献ですが、近過去を対象にしているため、映像・音声資料、インタビュー記録、その他のデジタルデータなども史料となりますし、文献資料の中には技術論文、設計図なども含まれます。</p>											
【到達目標】											
<p>・現在進行形で日々変化しているコンピューティング環境のありようについて、歴史的な理解をもつことで大局的な理解ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 軍事研究をめぐる近年の議論の整理 3. 軍事研究をめぐる近年の議論の整理 4. 暗号解読とコンピュータ 5. Giant Brainの構築 6. 英米以外の1940年代から1960年代までのコンピュータ開発 7. 人間機械混成系という概念 8. 全米防空網SAGE 9. 航空宇宙開発とコンピュータ 10. Star Wars構想とCPSR 11. Star Wars構想とCPSR 12. コンピュータ・ネットワークの誕生 13. コンピュータ・ネットワークの発展 14. 人工知能と戦争 15. フィードバック 											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価
授業前課題や授業内課題への参加(30点)
レポート課題の内容(70点)

【教科書】

プリント等を配布する予定

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

次回内容に関する授業前課題への回答(所要時間15分程度)
配布資料の読解(英語文献を含む。所要時間30分/件)
レポート作成(3時間程度)

(その他(オフィスアワー等))

PandAのコースサイトを作成

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系34

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 仁井田 千絵			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		映像メディア論を読む									
【授業の概要・目的】											
本講義では、主に写真、映画、アニメーションについて書かれた理論的・歴史的な論考を講読しながら、現在の映像メディア論における基本的な思想的枠組みを学ぶ。授業では映像メディアに関する学術的な文章を読んで理解することに重点を置き、今日の我々を取り囲む映像メディアをより批評的に考察するための糸口とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・映像メディア論の代表的な思想、キーワードを理解する。 ・写真、映画、アニメーションに関する学術的な文章を読むことで、映像メディアを批評的に考察する視点を身につける。 											
【授業計画と内容】											
授業は 学生によるテキストの要約発表、 全体講読、 ディスカッションから進めます。											
<p>要約発表：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部生 = 指摘されたテキストのキーワードを調べて説明する。 ・大学院生 = 指定された応用編のテキストの概要をまとめる。 <p>全体講読：</p> <p>教員による補足・解説を行います。</p> <p>ディスカッション：</p> <p>PandAのフォーラム投稿をベースに行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2-3回 映像メディア論の基礎 第4-6回 写真論 第7-9回 映画論 第10-12回 アニメーション論 第13-14回 レポート構想発表 第15回 フィードバック</p>											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

課題として出されるテキストの読解と授業でのディスカッションに積極的に参加する意志があること。

[成績評価の方法・観点]

授業参加：60%（要約発表、PandAのコメント投稿、授業でのディスカッション）

期末レポート：40%（課題テキストとテーマを1つ選択して執筆）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

門林岳史・増田展大編『メディア論—理論と歴史からいま>が学べる』（フィルムアート社）

トム・ガニング『映像が動き出すとき—写真・映画・アニメーションのアルケオロジー』（みすず書房）

[授業外学修（予習・復習）等]

課題テキストを事前に読み、要約・概要をまとめる。

（その他（オフィスアワー等））

教員と連絡を取りたい場合は、メールの件名に氏名、科目名、科目の時限を必ず記載し、下記のアドレスまで送ること（これらの記載がないメールには返信しないので注意）。

仁井田千絵<niita.chie.3w@kyoto-u.ac.jp>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 仁井田 千絵			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		映画と演劇									
【授業の概要・目的】											
本講義では、映画史を演劇との関係から考察する。映画がテクノロジーの発明から一大娯楽メディアとして今日に至るには、既に知名度のあった演劇の映画化、および映画を劇場＝映画館で見るという形態が不可欠であった。授業では主に英語圏の映画と演劇に関する論考を講読しながら、舞台の映画化（あるいは映画の舞台化）、演技／演出論、観客との関係について考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・映画史を演劇との関係から理解する。 ・具体的な作品を映画と演劇の比較を通して分析する。 											
【授業計画と内容】											
授業は 学生による要約発表、 教員による補足、ディスカッションから進めます。											
<p>要約発表：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部生＝指摘されたテキストに出てくる映像／舞台作品を調べて説明する。 ・大学院生＝指定された応用編のテキストを読んで概要をまとめる。 <p>ディスカッション：</p> <p>教員による補足・解説の後、PandAのフォーラム投稿をベースに行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 映画と演劇の基礎：歴史編 第3回 映画と演劇の基礎：理論編 第4回 映画と演劇の演技/演出論 第5-8回 作品分析、論文講読：シェイクスピア作品を中心に 第9-12回 作品分析、論文講読：ミュージカル作品を中心に 第13-14回 レポート構想発表 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外に一定量の英語テキストを読む意志があること。 ・テキストに出てくる映像作品を自分で調べたり見たりする時間があること。 											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業参加：60%（要約発表、PandAのコメント投稿、授業でのディスカッション）
期末レポート：40%（作品を1つ選択して執筆）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Russell Jackson 『The Cambridge Companion to Shakespeare on Screen』（2020）
Steven Cohan 『Hollywood Musicals (Routledge Film Guidebooks)』（2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

課題テキストを事前に読み、PandAのフォーラムに投稿する。

（その他（オフィスアワー等））

教員と連絡を取りたい場合は、メールの件名に氏名、科目名、科目の時限を必ず記載し、下記のアドレスまで送ること（これらの記載がないメールには返信しないので注意）。
仁井田千絵<niita.chie.3w@kyoto-u.ac.jp>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 先端総合学術研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法論									
【授業の概要・目的】											
<p>「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。</p>											
【到達目標】											
この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。											
【授業計画と内容】											
1 導入 質的調査は何をするのか 2 一般化という問題 普遍性と固有性のあいだで 3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1) 4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2) 5 「理由のある行為」とは何か(1) ウィリスとブルデュー 6 主体的なものと状況的なもの 丸山里美 7 身体と意味 石岡丈昇 8 「裸足」とは何か 上間陽子 9 男であることの社会学 打越正行 10 語りのなかに引きずり込まれる 岸政彦(1) 11 語り手から名前を呼ばれる 岸政彦(2) 12 聞くという経験を書く 岸政彦(3) 13 「理由のある行為」とは何か(2) ウェーバー 14 方法/倫理/政治 15 まとめ 質的調査は何をすればよいのか											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』(2016)
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系37

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 現代社会学部 准教授 東 園子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		やくざ映画とジェンダー									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、1960～70年代の日本のやくざ映画を、ジェンダー論の観点から分析する。やくざの世界を描くやくざ映画は、1960年代から1970年代にかけて大量に制作され、激しい殺陣等のアクションや義理人情に厚い主人公像などが男性客を中心に人気を博し、当時の日本映画の主要なジャンルの一つだった。</p> <p>やくざ映画には「男」へのこだわりが見られ、女性の描き方も含めて、ジェンダー論的に興味深い対象となっている。</p> <p>授業では、実際にやくざ映画を鑑賞し、そこで描かれる男性像・女性像や、その変化等を分析する。</p>											
【到達目標】											
映画をジェンダー論の観点から分析できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の予定に従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいなどによって順序や内容を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～3回 映画のつくり 第4～6回 任侠映画の基本的性質 第7回 やくざ映画の時代背景 第8～9回 男同士の関係と女性 第10～11回 男社会の中の女性 第12～15回 任侠路線から実録路線へ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（毎回の小レポート） 100点											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習 前回の授業内容の再確認。
復習 ノートを整理し、授業内容を振り返り、課題映画に対する考察を深める。

(その他(オフィスアワー等))

・授業で見ってもらう映画には字幕はなく、暴力的な表現が含まれます。

・オンライン授業になった場合、授業で用いる課題映画を、動画配信サービス等を利用して自分で見ってもらうことになります。
そのため、利用するサービスにもよりますが、最大で2~3000円程度の費用がかかる可能性があります。
それを承知の上で受講してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		情報ネットワーク社会論									
【授業の概要・目的】											
ハーバーマス、ギデنز、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。											
【到達目標】											
現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解できるようにする。											
【授業計画と内容】											
以下の計画で15週の講義をおこなう。											
1 オリエンテーション											
2 情報ネットワーク社会への視点											
3 日本社会の情報化 情報化の現代史(1)											
4 アメリカ社会の情報化 情報化の現代史(2)											
5 監視社会論 社会システムの情報化(1)											
6 リスク社会論 社会システムの情報化(2)											
7 経済システムの情報化 社会システムの情報化(3)											
8 ネット空間の展開 生活世界の情報化(1)											
9 再帰的近代化としての情報化 生活世界の情報化(2)											
10 生活世界のリアリティの再構築 生活世界の情報化(3)											
11 公共圏の情報化											
12 親密圏の情報化											
13 公共圏/親密圏の再編成											
14 情報ネットワーク社会論の再構築											
15. フィードバック (PandA上で実施)											
【履修要件】											
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい											
【成績評価の方法・観点】											
素点(100点満点)で評価する。											
・ 平常点(40点)+期末レポート(60点)											
・ 平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題の提出による (詳細はオリエンテーションで説明)											
・ 素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ PandA上で事前配布する資料を予習しておくこと
- ・ 資料の当日配布は行わないので、必ず各自で事前にダウンロードし、講義当日持参すること(必ずしも印刷の必要はない)
- ・ PandAサイトで復習用課題を実施する(詳細は初回授業で説明)

(その他(オフィスアワー等))

・ PandAサイトを上記の課題実施ほか、授業に関する各種連絡に活用する(利用方法は初回の授業で説明)

- ・ オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 坂本 尚志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』 - 1960年代フランスにおける概念の哲学の系譜									
【授業の概要・目的】											
20世紀の思想を扱う場合に無視できない重要性を持つメディアである「雑誌」ならびにそれが表象する場をいかに分析できるのかを考察する。特に、少人数のグループによって少部数が編集・刊行されたのみにもかかわらず、同時代の思想に影響を与えた雑誌に着目する。具体的には、1960年代後半にパリの高等師範学校生によって刊行された2つの雑誌『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』を対象とし、刊行の背景、内容、同時代ならびに後世に与えた影響について、所収されたいくつかのテキストを読解しつつ考察する。これらの内容により、雑誌と内在的諸構造の分析ならびにその歴史的、思想的文脈の再構成に関する方法論的知見を身に付けることを目指す。											
【到達目標】											
雑誌を対象とした思想史的分析の方法を理解する 1960年代フランス思想史の基本的論点について説明できる 哲学・思想に関するテキストを読解し、その論点について説明できる											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、進行状況や受講生の関心や議論の内容等に応じて適宜順序、内容を変更する場合がある。											
第1回 イントロダクション 1960年代のフランス思想と「概念の哲学」											
第2回 高等師範学校という舞台											
第3回 アルチュセール、ラカン、カンギレム 2つの『手帖』誕生の背景											
第4回 『マルクス=レーニン主義手帖』と『分析手帖』 分裂と発展											
第5回 『分析手帖』の考察 - 精神分析											
第6回 『分析手帖』の考察 - マルクス主義											
第7回 『分析手帖』の考察 - エピステモロジー											
第8回 『分析手帖』の考察 - スピノザルネサンス											
第9回 『分析手帖』における論争 - ミレールとバディウ											
第10回 『分析手帖』とフーコー 「エピステモロジーサークルへの回答」											
第11回 『マルクス=レーニン主義手帖』 - その成立を探る											
第12回 『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』 - 文学をめぐる対立											
第13回 68年5月の衝撃 - 2つの『手帖』の終焉											
第14回 廃墟だったのか、それとも未来への種子だったのか？ 2つの『手帖』の意義											
第15回 フィードバック											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(授業参加等)50%
最終レポート50%

[教科書]

授業で使用する資料については、事前にアップロードあるいは当日配布する。

[参考書等]

(参考書)

上野修、米虫正巳、近藤和敬編 『主体の論理・概念の倫理 20世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義』(以文社、2017年) ISBN:978-4753103386(坂本尚志「構造と主体の問い 『分析手帖』という「出来事」」(169-191ページ))

フランソワ・ドゥス 『構造主義の歴史 上 記号の沃野 1945~1966年』(国文社、1999年) ISBN:978-4772004626

フランソワ・ドゥス 『構造主義の歴史 下 白鳥の歌1967~1992』(国文社、1999年) ISBN:978-4772004633

Peter Hallward and Knox Peden 『Concept and Form, 2 vols.』(Verson, 2012)

(関連URL)

https://doi.org/10.20634/ellf.115.0_255(坂本尚志「『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』1960年代フランスにおける学知、革命、文学」)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

質問事項については、授業前後に問い合わせるか、メールにてお願いします。
メールアドレスは授業中にお知らせします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系40

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 安岡 孝一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多言語情報処理論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、コンピュータによる自然言語処理のうち、文法解析の手法に焦点をあてて講義をおこなう。古典中国語(漢文)、日本語、英語、フランス語、タイ語などの書写言語に対し、Universal Dependenciesを用いた依存構造(係り受け)解析について、演習形式で講義を進める。											
【到達目標】											
書写言語とその処理における「モデル化」というものが、どのような形でおこなわれているのか理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1~2週の授業をする予定である。ただし、この分野は進捗が早いので、世界の研究状況の進捗に合わせ、適宜、内容を最新のものに差し替える。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 依存文法とUniversal Dependencies (1回) 2. BERT/RoBERTaなどの事前学習モデル (1回) 3. 系列ラベリングと品詞付与 (1回) 4. 依存構造(係り受け)解析アルゴリズム (2回) 5. 古典中国語(漢文)の文法解析 (2回) 6. 日本語の文法解析 (2回) 7. 英語の文法解析 (1回) 8. フランス語の文法解析 (1回) 9. タイ語の文法解析 (1回) 10. その他の書写言語の文法解析 (3回) 											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としないが、Google Colaboratory(あるいはgmail)の使用経験があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【授業外学修(予習・復習)等】

依存構造(係り受け)解析を中心とする自然言語処理が、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系41

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院先端総合学術研究科 ROTH, Martin Erwin 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		批判的ゲームスタディーズの基礎理論									
【授業の概要・目的】											
近年大きく発展してきたデジタルゲームは、文化産業、軍事産業、コンピュータによる生の管理、そしてプラットフォーム資本主義と深く結びついている。本講義では、このようなゲームを批判的に捉えてきたゲームスタディーズの理論的展開を軸に、現代ゲーム文化を考察・検討する。											
【到達目標】											
デジタルゲームを批判的に捉える意義を理解し、各理論を自信でゲームやデジタルメディアに適用しながら、現代のメディア環境を考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 批判とは何か：フランクフルト学派を背景に 2. 遊びI：Huizinga 3. 遊びII：Suits 4. マーケティングサーキット：Kline et al. 5. 帝国：Dyer-Witheford et al. 6. サイボーグ：Haraway 7. 表現力I：Galloway, Kirkpatrick 8. 表現力II：Wark, Flanagan 9. 表象I：Malkowski et. al. 10. 表象II：ジェンダー：Shaw, Ruberg 11. ゲーミフィケーション：井上 12. プラットフォーム：Castronova 13. メタゲーミング：Boluk et al. 14. 遊びの再検討：Sicart, Henricks, Roth 15. 総合討論 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評点は6段階。 討論への積極的な参加（30%）、レポート（1回、70%）により評価する。 レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回のテキストを通読して準備すること

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系42

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 社会学部 教授 守 如子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>メディアは様々な点でジェンダー（社会的・文化的性差）と深い関わりを持っている。広告やドラマ、ニュース報道における「男性」「女性」の表現のされ方の違いや、男女によるメディアの利用の仕方の違いなどを考えてみてほしい。（1）メディアの送り手、（2）メディアが伝達するメッセージ、（3）メディアの受け手、というそれぞれの局面において男女の差異を見いだすことができるだろう。本講義では、「送り手」「メッセージ」「受け手」の各局面においてジェンダーが担っている社会的機能を、社会学やメディア研究、ジェンダー論などの理論を参照しつつ、検討していく。</p>											
【到達目標】											
<p>ジェンダーとは、人が生まれて性別のレッテルを貼られた時点から、しつけ、学校など、さまざまな日常生活の過程を通じて日々実践され、構築されるものである。このジェンダーの構築に際して、現代社会ではメディアの果たす役割が大きいことが指摘されている。</p> <p>メディアの多様な側面に着目し、それぞれの過程におけるジェンダー性を読み解くことを通じて、メディア研究の視点を理解してもらおうと同時に、ジェンダーの構築性も理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には下記の授業計画に基づき授業を進める予定であるが、順番および具体的な内容について変更する場合がある。</p> <p>第1回 「ジェンダー」とは何か ジェンダー概念の基礎知識 第2回 映画における女性と男性の描かれ方 第3回 言葉とジェンダー、ジェンダーバイアス 第4回 雑誌とジェンダー 第5回 テレビとジェンダー 第6回 メディアの送り手とジェンダー 第7回 少年マンガ、男性マンガ 第8回 恋愛と結婚 少子化をめぐって 第9回 親子関係と母性愛神話 第10回 スポーツ報道とジェンダー 第11回 若者の性の現状とLGBTQの基礎知識 第12回 ジェンダーと暴力 第13回 買春とポルノグラフィ 第14回 ファン研究 BLを題材に 第15回 フィードバック</p>											
* 期末レポートの詳細については、初回の授業で告知する。締め切りは、7月上旬を予定。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより評価する(100%)。

・レポートの評価基準については、授業内容を踏まえていることを基準として、独自の工夫をしている場合には高い評価を与える。詳細については、最初の回で告知する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

国広 陽子・他編 『メディアとジェンダー』(勁草書房, 2012)

井上輝子・他編 『新編 日本のフェミニズム 7 表現とメディア』(岩波書店, 2009)

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子 『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』(法律文化社, 2018)

参考文献は授業内でも適宜紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前に前回までの授業内容を復習しておくこと。また、レポート作成を計画的に取り組むこと。

(その他(オフィスアワー等))

本務校が別なため、大学へは授業時にしか行きません。問い合わせたいことがある場合には、授業の終了後にお尋ねいただくか、nmori@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 産業社会学部 准教授 飯田 豊			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア技術史									
【授業の概要・目的】											
<p>「新しい が を変える」という言い回しが、世の中にはいろいろとある。たとえば、Twitterが政治を変える、ビッグデータが経済を変える、AIが仕事を変える、オンライン授業が教育を変える、マッチングアプリが恋愛を変える、メタバースがコミュニケーションなど、とくにデジタルメディアに関する事例は枚挙にいとまがない。それにともなって、新聞やテレビなどが伝える情報を批判的に読み解くという意味でのメディア・リテラシーだけでなく、インターネットを基盤とするデジタルメディアが遍在する社会を生き抜くための素養を身につけることが、小学校から大学にいたるまで、教育の現場で重視されるようになってきた。</p> <p>もっとも、新しいメディアの「新しさ」を深く追究しようと思えば、結局のところ、古いメディアとの比較を避けて通ることはできない。新しいメディアをめぐるさまざまな現象に興味をもち、積極的に解釈や分析を積極的に試みることは重要だが、同時に、目の前で起こっていることを近視眼的にとらえるのではなく、過去の事例から学び、現在にいかす思考を身につけることが望ましい。</p> <p>したがって、メディアについて理解するうえで、技術史の思考法はきわめて有用である。電話やラジオ、テレビが日常生活と不可分に結びついた20世紀を経て、インターネットやスマートフォンが普及した現在、メディアと人間、あるいは技術と社会の関係はどのように変わってきたのだろうか。この授業では、われわれの日常に根ざしたさまざまなメディア技術の成り立ちに目を向け、その将来までを展望する。</p>											
【到達目標】											
<p>近代社会におけるメディア・コミュニケーションの発展が、どのようにして技術的に実現されてきたのかを理解し、それを適切に説明できるようになる。</p> <p>「メディア」と「技術」の相互関係に対する理解を深め、それを適切に説明できるようになる。</p> <p>メディアの技術変容と不可分に関わりながら発展してきたメディア論の基礎的な思考法を理解し、それを適切に説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のスケジュールにもとづいて講義を進める。ただし、講義の進捗状況や受講者の理解度などを踏まえて、若干の変更もありうる。</p> <p>第1回 イントロダクション：メディア技術史とは何か</p> <p>第2回 技術としての書物：紙の本 VS 電子本への古くて新しい回答</p> <p>第3回 写真はどこにあるのか：イメージを複製するテクノロジー</p> <p>第4回 映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（ 光学装置の開発と視覚理論の発展）</p> <p>第5回 映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（ 初期映画）</p> <p>第6回 音楽にとっての音響技術：歌声の主はどこにいるのか</p> <p>第7回 声を伝える / 技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（ 電信と電話）</p> <p>第8回 声を伝える / 技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（ ラジオ）</p>											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

- 第9回 テレビジョンの初期衝動：「遠く (tele) を視ること (vision)」の技術史 (電子式テレビジョン)
- 第10回 テレビジョンの初期衝動：「遠く (tele) を視ること (vision)」の技術史 (機械式テレビジョン)
- 第11回 ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に (初期CATVの考古学)
- 第12回 ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に (ポストメディアとしてのミニFM)
- 第13回 文化としてのコンピュータ：その「柔軟性」はどこからきたのか
- 第14回 開かれたネットワーク：インターネットをつくったのは誰か
- 第15回 誰のための技術史？：アマチュアリズムの行方

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート(60点)、平常点(40%)により評価する。
レポートについては、メディア技術史に関する基礎的な知識に加えて、メディア論の思考法について、総合的な理解ができているかどうかを評価する。事象を論理的に説明できているかどうか、要領よくまとめて書けているかどうか、自分の考えを述べていることができるかどうかを重視する。平常点については、コミュニケーションペーパーの提出を求め、その内容にもとづいて参加状況の評価をおこなう。

【教科書】

飯田豊編著『メディア技術史：デジタル社会の系譜と行方[改訂版]』(北樹出版、2017年)
ISBN:978-4-7793-0532-0

【参考書等】

(参考書)
水越伸・飯田豊・劉雪雁『新版メディア論』(放送大学教育振興会、2022年)(2022年3月刊行予定。)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前に教科書の該当部分を一読しておいてください。また、授業で使用するプリントは事前に配布することがあるので、当日までに一読しておき、忘れずに持参してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 総合情報学部 教授 森尾 博昭			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		インターネットと心理									
【授業の概要・目的】											
日本人の生活に、インターネットに接続されたコンピュータや携帯電話といったネットワーク機器が浸透し始めてから10年ほどが経過した。インターネットは、時間と空間を超え、われわれに莫大な量の情報接触の機会をもたらした。また同時に、社会的ネットワークを比類なきレベルにまで拡大・強化させることを可能にさせるインフラストラクチャーとして、個人・対人関係・集団・社会といった多岐にわたるレベルで、さらにそれらが互いに輻輳しながら、私たちの日常生活、そしてライフスタイルそのものに大きな変化をもたらしてきた。											
【到達目標】											
本講では、国内外の研究にもとづき、インターネットというシステムとその利用者たちが作り出すデジタルでヴァーチャルな社会が現実社会にもたらす影響力を、「個人」「対人関係」「集団」「社会」の4つの切り口から理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 心理学から見るインターネット 第2回 インターネット・パラドックス 第3回 オンラインにおける印象形成 第4回 自己開示・自己呈示1 第5回 自己開示・自己呈示2 第6回 CMCと対人影響過程1 第7回 CMCと対人影響過程2 第8回 CMCと孤独感 第9回 知識共有コミュニティの心理 第10回 地域社会とインターネット 第11回 SNSの心理 第12回 フェイクニュースとPost Truth 第13回 オンラインゲーム行動の心理学 第14回 子どもの発達とインターネット 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

定期試験(30%)、平常点(70%)とする。平常成績には、小テスト、授業実施後のミニッツペーパー、課外課題への参加などが含まれる。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された参考資料を用いて事前に予習する。心理学の研究手法を体験するため、オンライン調査や実験への参加の機会が与えられる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 文学部 教授 堀 潤之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		映画論を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>映画についての学術的言説としては、1960年代に北米で成立した「フィルム・スタディーズ」の紡ぐ言説が今なお一定の有効性と影響力を誇っている。しかし、映画をめぐる言説は、もちろんそれだけにはとどまらず、フィルム・スタディーズ成立以前の古典的理論や映画批評も存在すれば、フィルム・スタディーズに先だって、あるいはそれと並行して映画についての別種の知のあり方を提示しようとする言説も枚挙にいとまがない。この授業では、そうした広い意味での映画論・映像論を対象に、何人かの鍵となる著述家やいくつかの重要概念に焦点を当て、演習形式も取り入れつつ、彼らの言説の可能性を探る。</p>											
【到達目標】											
<p>1)映画をめぐる言説の多様性を概観し、鍵となる著述家の展開する思考を十分に理解する。 2)それに基づいて映画・映像作品を分析するための応用力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の内容を予定している。一方的な講義だけでなく、随時、受講生による報告（文献のレジュメなど）や、文献購読を採り入れる。</p> <p>第1回-第3回 古典的映画論のアクチュアリティ 近年の再検討・再評価の動きをふまえて、フィルム・スタディーズ成立以前の映画論の現代的な可能性を探る。ベラ・バラージュ、ジャン・エプシュタイン、ジガ・ヴェルトフ、ジークフリート・クラカウアーなどの重要概念を取り上げる。</p> <p>第4回-第6回 映画批評の系譜 映画についての言説は、個々の作品に評価を下す批評活動と切っても切り離せない。学術的な映画論に先行し、それに寄り添い、時にはそれを凌駕する言説の系譜をたどる。アンドレ・バザンからセルジュ・ダネーに至るフランス映画批評の流れに焦点を当てる。</p> <p>第7回-第9回 現代映画理論の展開 古典的映画論をふまえつつ、1960年代の知的風土を背景に、映画記号学という新たな学術的な装いで始動した現代映画理論の誕生と、その後、現代に至るまでの顛末をサーヴェイする。クリスチャン・メッツ、レーモン・ベルール、ローラ・マルヴィを中心的に扱う。</p> <p>第10回-第12回 フィルム・スタディーズの冒険 1960年代から制度化し始めたフィルム・スタディーズの枠内で、デイヴィッド・ボードウェル、トム・ガニングなど、新しいパラダイムを切り拓いた論者に焦点を当てる。</p> <p>第13回-第15回 哲学者たちの映画論 フィルム・スタディーズ成立以降、そのディシプリンの外から、映画をめぐる独自の思考を展開した論者を取り上げる。特に、ジル・ドゥルーズやジャック・ランシエールといった、フランスの</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

哲学者が展開した映画論に注目する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加(20%)、授業内での報告(20%)、学期末レポート(60%)で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

堀潤之・木原圭翔編『映画論の冒険者たち』(東京大学出版会、2021年)ISBN:978-4-13-083082-9
(授業の構成は、本書の5部構成をそのまま採用している。本書の記述内容をそのまま講じるわけではないし、本書で取り上げていない人物や概念を取り上げることもあるので、授業の進行に応じて参考に読み進めてもらうことを想定している。その他、参考文献は多数あるので、授業中に適宜紹介する。)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で指定文献の紹介を求めるので、授業外学習として、レジユメの準備等を事前に行うことが必要となるほか、上記の参考書を読むことで知識や考え方の定着を図ることを推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けていませんが、授業後に直接、あるいはメール(hori@kansai-u.ac.jp)でいつでもご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系46

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近現代社会経済史									
【授業の概要・目的】											
近現代日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く工業化と経済成長とを成し遂げ、それと同時に帝国主義国にもなった日本の経験について理解を深めることは、現代日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、発展途上国の経済開発や今後の国際関係などについて考察する際にも有益であろう。											
【到達目標】											
現代日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．近世経済の概観 2．幕末・維新期の経済と政策 3．地主制の成立と機能 4．産業革命 5．帝国主義日本の成立 6．第1次世界大戦とその影響 7．不況下の成長：1920年代 8．昭和恐慌と経済政策 9．財閥と新興コンツェルン 10．戦前期の労使関係 11．「大東亜共栄圏」とその崩壊 12．占領、復興、特需 13．高度経済成長 14．安定成長から停滞へ 15．フィードバック 											
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間レポート（25%）+ 期末レポート（75%）によって評価する。											
【教科書】											
レジュメを配布する。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』(東京大学出版会、2021)

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』(有斐閣、2007)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系47

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エネルギーからみる日本の近現代									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、近現代日本の社会経済史をエネルギーの観点から追究することである。エネルギーの確保がどのように行なわれてきたのかを理解すると同時に、その変化が人びとの生産・生活にどう影響したのかを検討することを通じて、現代のエネルギー問題を長期的な観点から考察する能力を養いたい。											
[到達目標]											
現代におけるエネルギー問題を歴史的な視点から考察する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 産業革命と人新世 2 在来エネルギーの利用とトレードオフ 3 水資源開発の進展と植民地 4 石炭への転換と都市問題 5 エネルギー革命と臨海工業地帯 6 原子力の登場と国策共同体の形成 7 フィードバック 											
[履修要件]											
前期の講義を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポートによって評価する。											
[教科書]											
レジュメを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 平井健介・島西智輝・岸田真編著 『ハンドブック日本経済史－徳川期から安定成長期まで』（ミネルヴァ書房、2021） 中西聡編 『経済社会の歴史－生活からの経済史入門』（名古屋大学出版会、2017）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、関連する新聞・雑誌記事などに積極的に目を通すこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モノからみる中国近代史									
【授業の概要・目的】											
近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。											
【到達目標】											
中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国経済の仕組み 3. 中国茶貿易の発展 4. アジア間競争と中国茶の行方 5. アヘン貿易の発展 6. 中国アヘンの発展 7. 日中戦争とアヘン 8. 中国の米生産と動乱 9. 外国米貿易の発展 10. 羊毛貿易の勃興 11. 羊毛と内地経済 12. 大豆貿易の発展と満洲の開発 13. 大豆貿易と中国政治 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきている。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性は高い。新型コロナウイルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 明清時代の商業と牙行 3. 清代海上貿易の展開と仲介者 4. アヘン貿易と仲介者 5. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 6. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 7. 苦力貿易と客頭（1） 8. 苦力貿易と客頭（2） 9. 開港場貿易の発展と行棧（1） 10. 開港場貿易の発展と行棧（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系50

科目ナンバリング		G-LET37 6M431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査実習									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
前期											
1オリエンテーション											
2 調査の企画											
3 仮説構成											
4 調査項目の設定											
5 質問文・調査票の作成											
6 プリテストと調査票の修正											
7 対象者・地域の選定											
8 サンプルング											
9 調査の実施（調査票の配布・回収、面接）											
10 エディティング											
11 集計、分析											
12 データの視覚化											
13 仮説検証											
14 報告書の作成											
15 フィードバック											
後期											
1オリエンテーション											
2 データの入力・読み込み											
3 単純集計表、ヒストグラムの作成											
4 変数の操作の基礎											
5 変数の操作の応用											
6 クロス集計表、帯グラフの基礎											
7 クロス集計表、帯グラフの応用											
8 散布図、箱ヒゲ図の作成											
9 データセットの分割・結合											
10 独立性の検定											
11 平均値の差の検定											
12 多重クロス表分析											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

13 回帰分析の基礎
14 回帰分析の応用
15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

出席(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

【授業外学修(予習・復習)等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系51

科目ナンバリング	G-LET37 6M431 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 安岡 孝一				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	人文情報学1A										
[授業の概要・目的]											
この授業では、コンピュータや通信において用いられる文字コードについて、講義をおこなう。文字コードの技術的側面のみならず、文字コードの成立過程などの歴史的・社会的側面に重点をおいて、演習形式で講義を進める。											
[到達目標]											
文字コードの技術的側面を中心に、現代の文字コードに至る過程を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. モールス符号の変遷 2. 印刷電信機とその符号 3. 国際電信アルファベットとCCIT 4. 日本における電信符号の発展 5. ASCIIとISO R 646とJIS C 6220 6. JIS情報交換用漢字符号系の成立 7. 1970～80年代における文字符号の乱立 8. ISO/IEC 10646とUnicode 											
授業回数はフィードバックを含め全15回とする。											
[履修要件]											
特別な予備知識は必要としないが、インターネットへのアクセスや電子メールの使用経験があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)											
[教科書]											
適宜、資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 安岡孝一・安岡素子 『文字符号の歴史 欧米と日本編』 (共立出版,2006年) ISBN:4-320-12102-3											
[授業外学修(予習・復習)等]											
欧米と日本の近代史、特に20世紀の歴史について、事前に多少なりとも理解しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系52

科目ナンバリング		G-LET37 6M431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 安岡 孝一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人文情報学1B									
【授業の概要・目的】											
この授業では、世界の文字コードについて講義をおこなう。日本の文字コードのみならず、欧米やアジアの文字コードに関して、それらがどのような技術的・社会的条件のもとに成立したかについて、演習形式で講義を進める。											
【到達目標】											
現代の文字コードを通し、国際的な「決めごと」というものが、どのような形で成立し、あるいは成立しなかったかについて理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 当用漢字表・当用漢字字体表・人名用漢字・常用漢字表・表外漢字字体表とJIS漢字コード 2. 現代漢語常用字表・現代漢語通用字表・通用規範漢字表・標準電碼本とGB漢字コード 3. 常用國字標準字體表・次常用國字標準字體表とCCCII・BIG5・CNS 11643 4. KS C 5601 KS X 1001の変遷 5. QWERTY配列とASCII・ISO/IEC 646 6. クメールの文字コード 7. Microsoft Windowsにおける文字コードの実装 8. ケータイ絵文字の国際化 											
授業回数はフィードバックを含め全15回とする。											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としないが、インターネットへのアクセスや電子メールの使用経験があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
随時紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

Unicodeを中心とする文字コードが、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 6M431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 KITSNIK Lauri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Dialogues in Modern Japanese Architecture									
【授業の概要・目的】											
<p>What is modern Japanese architecture and when did it begin? How were ideas coming from abroad domesticated and further expanded? To what extent is modern architecture in Japan informed by traditional building styles and materials? How has the relationship between architecture and nature been understood and elaborated? What characterises the works of several Pritzker Prize-winning Japanese architects? These are some of the questions this course hopes to address by looking at the dialogues and developments in modern architecture as they took place in Japan during the past century. A number of research trips taken around Kyoto to observe key buildings form an integral part of the learning process.</p>											
【到達目標】											
<p>The students will 1) gain knowledge on the historical development of modern Japanese architecture and its major architects; 2) learn to relate the above developments to transcultural dialogues taking place within a global context; 3) become familiar with approaches for studying architecture with an opportunity to apply these on their own future research projects; 4) acquire skills for historical and comparative analysis of architecture; 5) extend their abilities to summarise past scholarship in oral presentation, and communicate their own original arguments in classroom discussion and writing.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Seligmann, Introduction 3. Research visit: around Kyoto University 4. Seligmann, Chapter 1: Incorporating International Influences 5. Research visit: Takaragaike and Kitayama 6. Seligmann, Chapter 2: Drawing from Domestic Developments 7. Research visit: Higashiyama 8. Seligmann, Chapter 3: Constructing Relations between Building and Nature 9. Research visit: Downtown Kyoto 10. Seligmann, Chapter 4: Developing Dialogues with Materials 11. Research visit: Kyoto Station and Omi-hachiman 12. Seligmann, Chapter 5: Abstraction and Reduction, or Listening to the Sound of One Hand Clapping and Chapter 6: Afterword: Expanding Dialogues and Developments 13. Research visit: Okazaki 14. Conclusion 15. Individual feedback 											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Individual presentation (40%), participation in classroom discussion (40%), final essay (20%)

【教科書】

Ari Seligmann 『Japanese Modern Architecture 1920-2015: Developments and Dialogues』 (The Crowood Press) (2016)

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Read the assigned textbook during the course.

(その他(オフィスアワー等))

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 6M431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院先端総合学術研究科 准教授 ROTH, Martin Erwin			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Digital games in a transcultural perspective									
【授業の概要・目的】											
Digital games are widely recognized as a global culture. However, the term global remains vague in most discussions, to say the least. In order to gain a more nuanced understanding, this class aims at discussing the possibility of a transcultural perspective on digital games. Discussing a wide range of dimensions and examples of transcultural elements in digital games, participants will develop a toolkit for analyzing games and gaming culture from a transcultural perspective.											
【到達目標】											
The course provides an understanding of relevant transcultural theories of and transcultural aspects about digital games. It enables students to analyze digital games, gaming culture and other aspects of digital media culture from a transcultural perspective.											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. What does “ transcultural ” mean #8211 you tell me 2. Starting Points: Global Circuits of Play 3. Production I: Hardware 4. Production II: Software and Editors 5. Distribution I: Region lock and Rating 6. Distribution II: Digital Platforms 7. Contents I: Representations of Culture 8. Contents II: Localization 9. Reception I: Reviews and Wikis 10. Reception II: Video sharing and live streaming 11. Game Cultures I: Speedrunning 12. Game Cultures II: E-Sports 13. Game Cultures III: Indie and Doujin 14. Play Cultures? 15. General Discussion 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

The course will be evaluated based on active participation in the discussion (30%), a short presentation (30%) and an essay on any transcultural aspect of digital games or gaming culture (40%), based on a six-point grade scale. The evaluation will be based on the course objectives.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

I expect you to prepare the weekly course readings as the course will be discussion-heavy and based on these readings.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系55

科目ナンバリング		G-LET37 78941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化研究の手法(前期)									
【授業の概要・目的】											
メディア文化研究では、資料の形態が多岐に渡る。この演習では、そうした多様な資料を扱い、論文を仕上げていくための実践的な技法を学ぶ。											
【到達目標】											
取り上げる資料の扱いに習熟し、各々の研究テーマに合わせて柔軟に技法を組み合わせることで研究を行うことができる基礎力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (雑誌編)											
第2回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (雑誌編)											
第3回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (広告編)											
第4回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (広告編)											
第5回 LaTeXによる文書作成の基礎											
第6回 LaTeXによる定型文書作成											
第7回 LaTeXによる論文作成											
第8回 LaTeXによる論文作成											
第9回 LaTeXでの文献データの使い方											
第10回 映像分析を用いた論文例の検討											
第11回 映像分析を用いた論文例の検討											
第12回 映像分析の基礎(コーディング、分析、構成表)											
第13回 映像分析の実際											
第14回 映像分析の実際											
第15回: フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(課題の提出、発表、レポート)											
-----メディア文化学(演習Ⅰ)(2)へ続く-----											

メディア文化学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

佐藤郁哉 『質的データ分析法』 (新曜社、2008年) ISBN:9784788510951

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げた技法を使って、実際にデータ収集、分析を行う課題を出すので、しっかり取り組むこと。できるだけ自分のパソコンを持参すること。

(その他(オフィスアワー等))

PandAにコースサイトを作成し、それを通じて授業連絡を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化研究の手法(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>現代英語圏で主流の美学・芸術哲学(いわゆる分析美学)は、ある種の思考の割り切り(単純化と明晰さ)をベースにしつつ、活発な議論(批判と反論の応酬)を通じて協働的に美・芸術・文化・感性についての理解を深めていくことを特徴とする。</p> <p>この演習では、インターネット上などで議論されがちなものも含めた身近な文化のトピックを取り上げつつ、メディア文化を理解・研究するためのひとつの手法として、哲学的な文化研究の視点や論じ方を学ぶ。</p> <p>具体的に取り上げる文化は、教員の専門であるビデオゲーム(コンピュータゲーム、デジタルゲーム、いわゆるゲームのこと)を主に想定しているが、それ以外の文化実践も適宜取り上げる。</p> <p>授業の補助ツールとしてSlackを利用する予定。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・分析美学の見方や議論のスタイルに触れる。 ・理論を具体的な文化実践に適用することの意義・利点・限界について考える。 ・より実証ベースの研究にとって理論がどのような役割を持ちうるかについて考える。 ・どのような問いが研究として成り立つのか、どのような問いに対してどのような手法が適切なのかについて考える。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2～14回 議論と解説(以下参照) 第15回 フィードバック</p> <p>第2～14回は基本的に以下の形式で進める予定。</p> <p>Slackで課題文献を提示する。 次回授業日までに課題文献を読んでもらい、Slackにコメント(意見・疑問・批判など)を書き込んでもらう。 授業当日は、Slackの書き込みをもとに教員が関連するトピックや先行研究を紹介する。場合によっては、自身の書き込みについて学生に簡単なプレゼンテーションをしてもらう可能性もある。</p> <p>2～3週を1サイクルとして～を繰り返す。課題文献は、短めの論文やインターネット上の記事を考えている。</p> <p>課題文献や取り上げる話題については柔軟に選定するが、少なくとも以下の論点は含まれる予定。</p>											
----- メディア文化学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習Ⅰ)(2)

- ・定義の問題：ある文化的カテゴリーについて「～とは何か」という問いは成立するのか。またそれを問う意義は何か。
- ・作品の評価：作品に対する「好き嫌い」と作品の「良し悪し」はどうちがうのか（本当にちがうのか）。作品のレビューは何をしているのか。
- ・文化史記述：ある文化の歴史記述と作品の価値づけはどのように関係しているのか。「古典」とは何か。
- ・作品の解釈：作品を解釈する際に、作者の意図を気にする必要があるのか。あるいはそもそも作品の解釈とは何をすることなのか。
- ・作品の分析：作品を要素に分解して扱うことの意義は何か。それをする際にどのような理論を使うのが適切なのか。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート：60%

平常点：40%

期末レポートの課題は「授業内で出た話題に関連して自分で問いを設定し、人を納得させられるような議論を経て答えを示しなさい（字数自由）」のようなものになる予定。

平常点は授業やSlackの書き込みにおける積極的な参加度で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

上記「授業計画と内容」に記載の通り、2～3週ごとに提示される課題文献の読解とそれに対するコメントが求められる。

また、Slack上の他の学生の書き込みについても目を通し、意見や疑問などがあればコメントしたりそれに応答したりするなど、積極的に議論に参加する態度を持って授業に臨むことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業外の質問は、基本的にメールまたはSlackのDMでお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 文化情報学部 准教授 河瀬 彰宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		音楽文化の計量的研究									
【授業の概要・目的】											
音楽(music)とは、時間の中に組み立てられた芸術のことである。音楽は社会の様々な仕組みの中で成立し、人々の行動様式・価値観と結びつきながら育まれてきた。そのため、ある音楽に対する評価は、音楽の性質だけに還元できるものではなく、そこに付与された社会的意味を切り離して考えることはできない。本講義では、音楽理論の基礎を学習するとともに、音楽を学際的に扱うために必要な能力を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
本講義の目標は、音楽文化に関する諸研究に対して、計量的な分析手法を適用する能力を身につけることである。本講義では、実際の音楽を解析するために、統計解析ソフトRを使用する。そのための実施環境を各自のPCで構築しておく必要がある。第01-03回は、その環境構築と操作方法の説明を行う。その後、第04-10回に音響解析。第11-14回に楽譜解析を実施していく。本講義を通じて、音楽の成立、データの作成方法、日本音楽（伝統音楽、歌謡曲、J-POP）を対象とした諸理論を概説し、最終的に、各自が好む音楽作品の実践的な分析を実施する。											
【授業計画と内容】											
第01回 ガイダンス1：講義内容と音楽文化研究の概要説明 第02-03回 Rの基本操作の説明 第04-10回 音響解析 第11-14回 楽譜解析 第15回 講義の総括											
【履修要件】											
作業・発表準備を進めるにあたり、Webに接続できる個人用のPCを所持していること。											
【成績評価の方法・観点】											
次の3つの項目によって評価する： 平常点：55点 最終発表・レポート：45点 ただし、演習形式の講義を展開するため、5回以上欠席した場合は、単位取得を認めない。											
【教科書】											
講義中に適宜資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

演習形式の講義を展開するため、復習中心で習得に当たられることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。
連絡先は初回の講義で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		田澤稲舟作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>田澤稲舟が文壇にデビューした明治二十年後半、近代文学の黎明期に、女性作家たちは批評家たちの興味本位の目にも晒されながら、どのようにして小説を執筆していったのか、彼女たちにとって小説執筆とは何だったのか、当時の、特に女性作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での稲舟の文学の特質について多角的に考察する。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>明治期の女性作家田澤稲舟の作品を読むことを通じて、稲舟の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・未定稿・同時代資料・同時代小説等の調査とそれらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 田澤稲舟についての概説。『文芸倶楽部』掲載、稲舟作品概観。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、教員からの講評を行う。</p> <p>3. 明治二十年代の文壇と女性作家をめぐる状況（『文芸倶楽部』第一巻第十二編臨時増刊「閨秀小説」を材料として）。</p> <p>4. 明治二十年代の文壇と女性作家をめぐる状況（樋口一葉宛関如来書簡を材料として）。</p> <p>5. 明治二十年代の文壇と女性作家をめぐる状況の問題点（稲舟作「しろばら」の同時代批評を材料として）。</p> <p>6. 稲舟作「しろばら」を読む。</p> <p>7. 「しろばら」のヒロインの造形と作品の展開との関連。「しろばら」の語り手の特徴。</p> <p>8. 明治二十年代の女性を取り巻く時代状況（樋口一葉「遠山鳥」、巖本善治「婚姻論」を材料として）。</p> <p>9. 樋口一葉作「十三夜」を読む。</p> <p>10. 「しろばら」と「十三夜」との比較。</p> <p>11. 稲舟作品の同時代批評検討。</p> <p>12. 稲舟と一葉の同時代評価の比較と、当時の批評の問題点。</p> <p>13. 稲舟作「医学修業」を読む。</p> <p>14. 同時代の文壇に対する稲舟の姿勢。稲舟と山田美妙。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、文学史の中での稲舟の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

[教科書]

授業中に指示する

田澤稲舟の作品を初出誌からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

[参考書等]

（参考書）

田澤稲舟 『田澤稲舟全集』（東北出版企画、1988年）

細矢昌武編著 『田澤稲舟研究資料』（無明舎出版、2001年）ISBN:9784895442671

田澤稲舟他 『新日本古典文学大系明治編 女性作家集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402239

樋口一葉 『新日本古典文学大系明治編 樋口一葉集』（岩波書店、2001年）ISBN:9784002402246

[授業外学修（予習・復習）等]

稲舟や一葉の作品を、できるだけ多く読むこと。

授業で配布されるレジюмеや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。

発表用レジюмеやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花の初期作品を読みながら、明治二十年代、近代文学の黎明期に、作家たちがどのようにして小説を執筆していったのか、彼らにとって 小説執筆 とは何だったのか、当時の作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での鏡花文学の特質について多角的に考察する。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花の作品を読むことを通じて、鏡花の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・未定稿・同時代資料・同時代小説等の調査とそれらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 泉鏡花についての概説。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、教員からの講評を行う。</p> <p>3. 鏡花の随筆・談話等を読み、鏡花が触れていた先行文芸について理解する。</p> <p>4. 鏡花の論説「愛と婚姻」を読み、その恋愛・結婚観を理解する。。</p> <p>5. 同時代批評を読み、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する（「義血侠血」「外科室」）。</p> <p>6. 同時代批評を読み、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する（「夜行巡查」「海城発電」）。</p> <p>7. 同時代批評を読み、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する（「琵琶伝」「化銀杏」）。</p> <p>8. 「夜行巡查」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>9. 「海城発電」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>10. 「義血侠血」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>11. 「外科室」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>12. 「琵琶伝」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>13. 「化銀杏」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>14. 鏡花作品の人物造型の特色を、鏡花が親しんでいた先行文芸と比較しつつ分析する。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、当時の文壇や文学史の中での鏡花の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

[教科書]

授業中に指示する
作品を初出誌からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

[参考書等]

（参考書）

泉鏡花 『鏡花全集』（岩波書店、1973～1976年）（全28巻＋別巻があります。）

泉鏡花 『新編泉鏡花集』（岩波書店、2003～2006年）（全10巻＋別冊が2冊あります。）

泉鏡花 『新日本古典文学大系明治編第20巻 泉鏡花集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402208

泉鏡花 『日本近代文学大系第7巻 泉鏡花集』（角川書店、1970年）ISBN:9784045720079

[授業外学修（予習・復習）等]

鏡花や尾崎紅葉、樋口一葉などの作品を、できるだけ多く読むこと。

授業で配布されるレジュメや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。

発表用レジュメやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 国際マンガ研究センター 特任准教授 伊藤 遊			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ミュージアム/展覧会という「メディア」：「マンガ展」制作から考える									
【授業の概要・目的】											
<p>2000年代以降、マンガやアニメ、ゲームなどのポピュラーエンタテインメントは、公的な文化資源とみなされるようになってきている。本授業では、まず、そのような状況にいたった社会的な背景について理解することを目指す。</p> <p>多くのポピュラーエンタテインメントが、メディアを変えることで、あるいは組み合わせることで、新たなコンテンツを産み出してきたが、近年のポピュラーエンタテインメントをめぐる社会的状況の変化は、それらが、「ミュージアム」や「展覧会」というメディアにおけるコンテンツの展開を可能にしている。本授業では、授業担当者が関わってきた、京都国際マンガミュージアムにおけるマンガ展やマンガイベント、マンガワークショップなどを紹介することで、マンガが、「ミュージアム」や「展覧会」という近代的な制度にどのような影響を与え得るかを考える。</p> <p>後半には、マンガミュージアムを会場とした「マンガ展」を企画するグループワークとその発表を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>ポピュラーエンタテインメントは、ある社会的・文化的な文脈の中で登場したことを理解する。また、京都国際マンガミュージアムにおけるマンガ展を企画することで、「ミュージアム」「展覧会」というメディアの創造性と限界を実践的に理解する。</p> <p>同時に、プレゼンテーションの技術と方法論を実践的に学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：「コンテンツ」はいかにして公的な文化資源となったか</p> <p>第3回：京都国際マンガミュージアムができるまで</p> <p>第4回：マンガミュージアム見学</p> <p>第5回：マンガミュージアムにおけるマンガ展（1）</p> <p>第6回：マンガミュージアムにおけるマンガ展（2）</p> <p>第7回：マンガミュージアムにおけるマンガイベント</p> <p>第8回：マンガミュージアムにおけるマンガワークショップ</p> <p>第9回：マンガミュージアムにおけるイベント参加</p> <p>第10回：グループワークに向けて</p> <p>第11回～第12回：グループワーク</p> <p>第13回～第14回：グループワーク発表</p> <p>第15回：総括</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

【履修要件】

特にないが、少なくとも1回、「京都国際マンガミュージアム」（京都市中京区）での授業を実施する。

【成績評価の方法・観点】

発表内容 = 70点、ディスカッションなど授業への積極的な参加 = 30点

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で配布した資料や参考文献等を読むこと。
グループワークに向けたテーマの検討、調査および報告の準備。
マンガ展に限らず、展覧会やミュージアムに積極的に足を運ぶことを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系61

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		Awesome Balance グラフィック・デザイナー 文学研究科 教授		小泉 俊 喜多 千草	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インフォグラフィクス入門									
【授業の概要・目的】											
<p>文系・理系を問わず、データや分析結果を視覚的に示す力を持つことは、研究者にとって強みになる。この演習では、情報の可視化（インフォグラフィクス）に向けて必要な、グラフィックス作成の基礎力とデザインの基本を、主にコンピュータのドロー系ソフトを活用しながら学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>インフォグラフィクスの概要を知る。 グラフィックデザインの基礎を学ぶ。 自分の研究プロジェクトにインフォグラフィクスを取り入れるための基礎知識を得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 デザインの基礎とインフォグラフィクスの事例紹介 第2回 ドロー系ソフト講習（基本操作） 第3回 ドロー系ソフト講習（ベジェ曲線とトレース） 第4回 ドロー系ソフト講習（パスとテキスト） 第5回 課題A「マップ」制作 第6回 課題A「マップ」制作 ・プレゼンテーション 第7回 課題B「ピクトグラム」制作 第8回 課題B「ピクトグラム」制作 ・プレゼンテーション 第9回 課題C「グラフ」制作 第10回 課題C「グラフ」制作 ・プレゼンテーション 第11回 実践課題の決定 第12回 実践課題制作 第13回 実践課題制作 ・中間報告 第14回 実践課題制作 第15回 プレゼンテーションと総評</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（グラフィックス・デザイン基礎の実技課題40点、インフォグラフィクスの提案30点、提出作品30点）で評価する。											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習Ⅱ）（2）

【教科書】

飯塚将弘 『すぐに作れる ずっと使える Inkscapeのすべてが身に付く本』（技術評論社、2019）
ISBN:978-4-297-10585-3

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

実技に関しては、授業時間外にも繰り返し試み、習熟すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習「植民地朝鮮の医と病を読む」									
【授業の概要・目的】											
<p>この演習では、植民地期の朝鮮についての医学・医療史についての学術論文、回顧録、小説などを読みます。コロナ・パンデミックで関心が高まっている近代医学史を学びながら、さまざまなタイプの韓国語を読む訓練をします。</p> <p>朝鮮・韓国近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく4つのパートに分かれています。近年の近代朝鮮医学史研究の動向を理解できる概説的な論文（韓国語）を講読します。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールについて講義します。植民地期朝鮮の医療衛生に関わる資料（回顧録、小説）を精読します。受講生の関心に応じて、近現代の朝鮮史に関わる学術論文や一次史料（韓国語）を読みます。昨年度は、植民地下の京城帝国大学で心理学を学んだ朝鮮人学生の回想録を読みました。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。 2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。 3) 医療衛生史を中心とする朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史・医療史についての概説</p> <p>2～4回目 近年の近代朝鮮医学史研究の動向を理解できる概説的な論文の精読</p> <p>5回目 韓国語の論文・資料の調べ方についての講義</p> <p>6～10回目 植民地期朝鮮の医学史に関わる回顧録や小説などの資料の精読史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>11～15回目 受講者の希望に応じて、韓国語の教材を選び精読します（医学史に限定しません）。</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます（受講生の韓国語レベルに合わせて授業内容は設定します）。与えられた資料の単なる日本語訳ではなく、論文中の歴史的事件や資料の背景について自分で調べてもってミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）（2）

【成績評価の方法・観点】

論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

毎回プリントを配布して、文法事項や歴史的背景の説明、参考文献の紹介をします。

【授業外学修（予習・復習）等】

2回目以降の講読・精読については予習を必須とします。担当箇所は割り当てますが、自分の担当以外の部分も予習してくる意欲があればなおよいです。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業ではまず、以前の1945年、1981年に採択された二つの歴史決議がどのように制定され、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。とりあえずは、二つの決議を読解・分析し、決議で述べられているそれぞれの歴史事象がどのようなものだったかを調べ、党の歴史のアウトラインをたどることにする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動（政治運動）がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3-8回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 9-14回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 15回 第1、第2の決議に関して総合討論を行う。</p>											
【履修要件】											
<p>決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む（続）									
【授業の概要・目的】											
中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業では以前の二つの歴史決議の起草・採択の経緯をおさえた上で、三つ目の決議の起草・制定の経過を探り、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。三つの決議を比較・検討し、決議を制定することで、現政権が何を求めようとしているのかを分析する。											
【到達目標】											
中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動（政治運動）がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。											
【授業計画と内容】											
1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 4回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 5-12回 2021年に採択された「党の百年にわたる奮闘による大きな成果と歴史的経験に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 13-14回 三つの決議それぞれの特徴とその違いについて総合的に討議を行う。 15回 フィードバック。											
【履修要件】											
決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系65

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションを読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1952-1954, Volume 14, Part 2: China and Japan. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を無料で入手可能。</p>											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習Ⅱ）（2）

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回10ページ程度読み進める。報告担当者は、当該箇所の全訳を作成する。受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系66

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 塩出 浩之				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	日本近現代史研究精読（植民地と戦後）										
【授業の概要・目的】											
日本近現代史の学術書を精読する。報告と討論を通じて、学術書の意義や論点の見つけ方を身につけ、あわせて世界史の一部としての日本近現代史に関する理解を深める。 さらに大学院生としては演習を通じて、学術論文における論証の仕方や、一つの主題で研究をまとめる道筋も学び取って欲しい。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・精読と報告・討論を通じて、学術書の意義や論点を捉えるための読解力・表現力を身につける。 ・批判的読解を通じて、歴史研究における論証の技術を習得する。 ・一つの主題のもとに、まとまりのある研究を構成・執筆する能力を養う。 ・近現代の日本を世界史的視野から捉えられるようになる。 											
【授業計画と内容】											
日本の植民地統治について戦後との関係を問う研究を精読する。授業は参加者の報告と討論によって進行する（全15回）。											
<p>以下は候補文献の一部。変更・追加の可能性あり。</p> <p>飯島渉『マラリアと帝国』東京大学出版会、2005年</p> <p>高野麻子『指紋と近代』みすず書房、2016年</p> <p>キース・L・カマチョ『戦禍を記念する』岩波書店、2016年</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告（40％）と平常点（40％）、レポート（20％）によって評価する。正当な理由のない欠席は減点する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
報告者は文献を入念に読解して要点をつかみ、また論点の提起を行うこと。 報告者以外の参加者も必ず、文献を全て読了した上で、事前に質問や論点を提出すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
初回のガイダンスで報告の分担を決めるので、必ず参加すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET37 78946 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習ⅢA） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、専修に所属する学部3回生以上大学院生までが参加する専修の中心的演習である。多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。本演習を、自らの研究の進捗状況を報告し合い切磋琢磨する場として欲しい。</p> <p>隔週2コマ連続で開講し、毎回できるだけテーマが近い、本年度に卒論執筆を予定している学部生が報告を担当し、大学院生を中心としたコメンテータからのコメントの後、全体でディスカッションを行う。次年度卒論執筆を行う予定の学部生は最終回に研究テーマを発表するセッションを設ける。</p> <p>必修であるこの演習では、院生は各分野の研究方法や先行研究についての知識を活かして、学部生の研究発表に対する適切なコメントができるように十分に準備して臨むことが期待されている。</p>											
【到達目標】											
メディア文化研究における多様な研究方法を自らのものとし、研究ディスカッションを適切に行えるようになることが目標である。											
【授業計画と内容】											
第1セッション（第1回、第2回の連続）		オリエンテーション、報告レジュメの書き方についてのワークショップ									
第2セッション（第3回、第4回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第3セッション（第5回、第6回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第4セッション（第7回、第8回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第5セッション（第9回、第10回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第6セッション（第11回、第12回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第7セッション（第13回、第14回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第8セッション（第15回）		次年度卒論を執筆する予定の学部生全員による、それぞれの研究テーマに関するショートプレゼンテーション									
----- メディア文化学（演習ⅢA）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習ⅢA）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（報告を必ず担当することを必須とする。報告の内容と、ディスカッションへの貢献を評価する。）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者はあらかじめレジュメに目を通し、必要があれば言及されている作品等に目を通し、ディスカッションに備えること。

（その他（オフィスアワー等））

PandAのコースサイトおよびSlackを利用する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78947 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習ⅢB） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3,4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究の諸問題 B									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、専修に所属する学部3回生以上大学院生までが参加する専修の中心的演習である。多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。本演習を、自らの研究の進捗状況を報告し合い切磋琢磨する場として欲しい。</p> <p>隔週2コマ連続で開講し、毎回できるだけテーマが近い、本年度に卒論執筆を予定している学部生が報告を担当し、大学院生を中心としたコメンテータからのコメントの後、全体でディスカッションを行う。次年度卒論執筆を行う予定の学部生は最終回に研究テーマを発表するセッションを設ける。</p> <p>必修であるこの演習では、院生は各分野の研究方法や先行研究についての知識を活かして、学部生の研究発表に対する適切なコメントができるように十分に準備して臨むことが期待されている。</p>											
【到達目標】											
メディア文化研究における多様な研究方法を自らのものとし、研究ディスカッションを適切に行えるようになることが目標である。											
【授業計画と内容】											
第1セッション（第1回） 卒論執筆に関するWS 第2セッション（第2回、第3回の連続） 卒論中間報告 第3セッション（第4回、第5回の連続） 卒論中間報告 第4セッション（第6回、第7回の連続） 卒論中間報告 第5セッション（第8回、第9回の連続） 卒論中間報告 第6セッション（第10回、第11回の連続） 卒論中間報告 第7セッション（第12回、第13回の連続） 卒論中間報告 第15回 3回生による自らのテーマに沿った研究方法に関するショートプレゼンテーションのセッション											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（院生はコメンテータを必ず担当することを必須とし、コメントの内容とディスカッションへの貢献を評価する。）											
----- メディア文化学（演習ⅢB）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習III B）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者はあらかじめレジュメに目を通し、必要があれば言及されている作品等に目を通し、ディスカッションに備えること。

（その他（オフィスアワー等））

PandAおよびSlackを利用する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系69

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習IIC） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化研究の諸問題（特別）									
【授業の概要・目的】											
<p>多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。本演習は、本年度に卒論執筆を予定している学部生の報告について、その方法論や先行研究に関するディスカッションを行う。専修に所属する学生の幅広い関心領域を総覧し、ディスカッションに参加することで、メディア文化研究の基礎力を鍛える。</p>											
【到達目標】											
他の講義や演習で得た知識や技法を、自らの研究テーマに沿って実際に使いこなし、自らのものすることが目標である。											
【授業計画と内容】											
<p>メディア文化学研究の方法論について【4回】 ジェンダー論、マスメディア論、ゲーム研究、映画研究などの分野別論文計画の検討【10回】 フィードバック【1回】</p>											
【履修要件】											
本演習は、交換留学や長期病気療養などの理由により演習IIIAや演習IIIBが受講できなかった専修生を対象とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（毎回のディスカッションへの参加、自らの研究テーマに関する発表の担当などにより評価する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
【授業外学修（予習・復習）等】											
<p>自分の研究計画の発表のために先行研究を調べ、他の論文に示されている資料の扱い方や研究方法について知見を深めるとともに、適切な資料を集める。自主的、主体的な取り組みが求められる。</p> <p>（その他（オフィスアワー等））</p> <p>KULASISに掲載している。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

現代文化学系70

科目ナンバリング		G-LET37 7M432 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究の諸問題（大学院）									
【授業の概要・目的】											
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。											
【到達目標】											
修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。											
【授業計画と内容】											
1回目：修士論文・博士論文の予定テーマについて、各受講生がその要略を説明する。 2回目以降：各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。 最終回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度。60点）とレポート（40点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学修（予習・復習）等】											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、枚数制限は設けないが、報告時間が1時間以内におさまる分量にすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
専修のSlackを連絡手段として活用する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		米・中東関係の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については（当事国である米国においてさえ）正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. 中東の近代：Western impactから主権国家システムの生成（2回） 3. 西側統合政策の展開と挫折（1950年代）（4回） 4. オフショア・バランスの時代（1960-80年代）（3回） 5. 覇権的政策の盛衰（1990年代以降）（4回） 6. まとめとフィードバック（1回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）
五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に適宜指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学 文学研究科 准教授				箱田 恵子
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		清末中国における近代外交の形成										
【授業の概要・目的】												
この講義では、清末中国における対外姿勢の変容、近代外交の形成過程について、とくに米国との関係を中心に解説する。中国の漸進的改革の支援を主張した協力政策や留美幼児（米国への官費留学生）の派遣、米国による門戸開放主義の提唱と留美幼童出身者を中心とした清朝外務部の反応など、米清間の友好関係や米国の対中政策が清末の中国外交に与えた影響を考察する。それと同時に、米国における中国人移民排斥とそれに対する反米ボイコット運動など、対米関係が中国における愛国主義形成に与えた影響も取り上げ、清末中国における対外姿勢が、夷務から洋務、外務、そして民族主義的な外交へと変化していくことを考察する。												
【到達目標】												
受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解し、さらに特殊な関係と呼ばれる米中関係が、中国における近代外交の形成に与えた影響を理解し、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から理解する。												
【授業計画と内容】												
基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容の順序や同じテーマの講義回数を調整することがある。												
<ol style="list-style-type: none"> 1.前近代における清朝の対外態勢 2.米清関係の始まりと相互イメージ 3.協力政策とバーリンゲーム使節団 4.留美幼児の派遣 5.米清の友好関係と移民問題 6.新しい移民条約をめぐる交渉 7.清朝の対外紛争と米国の周旋・仲介・仲裁の試み 8.日清戦争後の変化と門戸開放通牒 9.義和団事件 10.米清通商航海条約交渉と自開商埠 11.日露戦争への対応 12.反米ボイコット 13.門戸開放政策と満洲問題 14.ドル外交とその影響 15.外務から外交へ 												
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----												

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
毎回資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけでなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 人間科学研究科 教授 藤目 ゆき			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		占領軍被害の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>連合占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い年月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。</p> <p>(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。</p> <p>(3)朝鮮戦争期に日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入ったことによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．研究の意義と方法 2．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害 3．占領軍労務動員と労働災害死傷 4．暴行・傷害・殺人 5．軍事演習被害・朝鮮戦争被害 6．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』（六花出版、2021年）ISBN:ISBN978-4-86617-157-9
授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

（参考書）

『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』（六花出版、2021年）
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系74

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食をめぐる研究の方法											
2 明治大正期の食											
3 アジア太平洋戦争までの食											
4 戦後の食											
5 牛乳の歴史学											
6 品種改良の歴史学											
7 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系75

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系76

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		物語と文化財、そして美術									
【授業の概要・目的】											
<p>近世から近代へと移行する中で、神話や物語は再編され、名所・旧跡は文化財として新たに価値づけられた。そのなかでも神武創業や南朝正統論などは典型であるが、その他、前近代に源平の戦いの表象にあった宇治には20世紀に国風文化の貴族や「源氏物語」の女性のイメージが付与された。近代天皇制が形成される中で、天皇陵や御物など「万世一系」を視覚化し、国民道徳をあらわす史蹟が生み出された。南画家の富岡鉄斎は明治維新から大正期まで文人として生きるが、彼の絵画は天皇崇敬の国民道徳を視覚化するものであった。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「物語と文化財、そして美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語と文化財 ・ 「歴史まちづくり法」と宇治 ・ 「歴史まちづくり法」と向日町 ・ 世界遺産と百舌鳥・古市古墳群 ・ 大山古墳と「仁徳天皇陵古墳」の名称 ・ 神武天皇陵の近現代 ・ 名教的文化財 ・ 南朝史蹟 ・ 赤穂浪士と旧跡 ・ 天皇陵の明治維新 ・ 「万世一系の神話」と天皇陵 ・ 「万世一系の神話」と御物 ・ 富岡鉄斎と明治維新 ・ 鉄斎が描いた南朝史蹟 ・ 鉄斎が描いた天皇行幸 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

高木博志ほか『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

高木博志『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

[授業外学修（予習・復習）等]

京都において、「物語と文化財、そして美術」に関わる巡見を希望者とする。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		京都らしさと文化、社会を描く美術									
【授業の概要・目的】											
<p>日露戦後の20世紀には社会問題が浮上し、庶民の生活や労働を描こうとする画家たちが現れる。京都では第二高等女学校で教えながら貧困の中、市井の庶民を描いた千種掃雲、その弟子で花街の雇仲居や遊女を題材とした梶原緋佐子、奈落の吉原遊女に向き合った秦テルヲなど、京都画壇の周縁の新しい動向を取り上げる。同じように京都の花街・遊廓の買春の現実に向き合った竹久夢二・野長瀬晩花も考える。また大正期の民芸運動は、明治以来の古社寺保存法などで政府が困り込んだファイン・アートからはこぼれ落ちたものに光をあてた。柳宗悦・河井寛次郎・寿岳文章らの営みを紹介したい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「京都らしさと文化、社会を描く美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日露戦後の社会 ・ 第一次世界大戦後の大衆社会 ・ 社会を描く ・ 京都と遊廓・花街 ・ 「千種掃雲日記」を読む ・ 梶原緋佐子が描く社会 ・ 秦テルヲと花街・遊廓 ・ 国画創作協会の若き才能 ・ 鴨東カルチェラタン ・ 京都と舞妓表象 ・ 大正期の祇園もの、南蛮憧憬 ・ 柳宗悦と民芸運動 ・ 寿岳文章と『紙漉村旅日記』 ・ 芹沢銈介と染織工芸 ・ 河井寛次郎 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。レポート作成について指導する。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「京都らしさと文化、社会を描く美術」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モノからみる中国近代史									
【授業の概要・目的】											
<p>近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国経済の仕組み 3. 中国茶貿易の発展 4. アジア間競争と中国茶の行方 5. アヘン貿易の発展 6. 中国アヘンの発展 7. 日中戦争とアヘン 8. 中国の米生産と動乱 9. 外国米貿易の発展 10. 羊毛貿易の勃興 11. 羊毛と内地経済 12. 大豆貿易の発展と満洲の開発 13. 大豆貿易と中国政治 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきている。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性は高い。新型コロナウイルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 明清時代の商業と牙行 3. 清代海上貿易の展開と仲介者 4. アヘン貿易と仲介者 5. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 6. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 7. 苦力貿易と客頭（1） 8. 苦力貿易と客頭（2） 9. 開港場貿易の発展と行棧（1） 10. 開港場貿易の発展と行棧（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都大学百二十五年史」を読む 1									
【授業の概要・目的】											
1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、創立から敗戦までを対象とする。											
【到達目標】											
近代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本近代史史料を読み込む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 京都帝国大学の創立 3 大学像の模索 4 「大学自治」をめぐる 5 大正期の高等教育改革と諸制度の整備 6 学生の諸相 7 社会運動の展開 8 滝川事件(1) 9 滝川事件(2) 10 戦時下の諸動向(1) 11 戦時下の諸動向(2) 12 兵役と学生 13 戦争末期の状況 14 敗戦 15 まとめ(フィードバック) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系81

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」 マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
メディア学の基本をなす比較メディア論の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点からメディア史を吟味し、現代社会の合意形成システムを考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1-2回 メディア社会とは何か 第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第4回 メディア都市の成立 第5章 出版資本主義と近代精神 第6回 大衆新聞の成立 第7回 視覚人間の国民化 第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第9回 ラジオとファシスト的公共性 第10回 トーキー映画と総力戦体制 第11回 テレビによるシステム統合 第12回 情報化の未来史 第13回 脱・情報社会へ 第14回 総論・試験 第15回 フィードバック											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

【成績評価の方法・観点】

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

【教科書】

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストブックス・1998）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）
佐藤卓己『メディア論の名著30』（ちくま新書）ISBN:9784480073525（メディア文化学を学ぶ上で基本となる文献を紹介、解説している。）

【参考書等】

（参考書）
佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（システム社会化とメディア研究の成立史を論じた著作。）
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）
佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）ISBN:9784004317647（現代のメディア・リテラシーの実践のために。）
佐藤卓己『メディア社会』（岩波新書）ISBN:9784004310228（サブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)
<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

【授業外学修（予習・復習）等】

テキスト『現代メディア史 新版』の各章、第一節、第二節を読んで授業に出席すること。各メディアについて『メディア論の名著30』の関連文献を中心に、発展的な学習を心掛けること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を、事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従い、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著) 『中央アジアを知るための60章』 (明石書店) ISBN:978-4-7503-3137-9 (中央アジア研究の入門書)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』 (東京大学出版会) ISBN:3-13-025027-2 (ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』 (国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・臼杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』 (明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第二次世界大戦再考									
【授業の概要・目的】											
<p>「20世紀史に決定的な切れ目を記した」(イアン・カーショー)と評される第二次世界大戦が、現代世界を強く方向づけたことは論を俟たない。第二次世界大戦を最新の研究水準に則して理解することは、現代世界に生き、それを乗り越えようとする人々にとって、不可欠の基礎的教養といってもよい。容易ならざる課題ではあるが、近年の研究成果を援用して、きわめて複合的な第二次世界大戦 = 「20世紀ヨーロッパの苦悩に充ちた歴史の震央」(カーショー)の全体像の構築を試みたい。</p>											
【到達目標】											
<p>高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦の基本的性格 (3回) (2) 前史 (2回) (3) 第二次世界大戦の展開 1939年9月～1941年12月 (3回) (4) 第二次世界大戦の展開 1941年12月～1943年2月 (3回) (5) 第二次世界大戦の展開 1943年2月～1945年8月 (3回) (6) 総括 (1回)</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中立国の第二次世界大戦：アイルランドに則して									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。イギリスとアメリカから執拗な参戦圧力がかけられ、ドイツによる侵攻が懸念され、国内では厳しい検閲の実施を余儀なくされ、物資不足の深刻化に悩まされ、等々、中立を維持するためにアイルランドはさまざまな難問への対処を求められた。それでもなお中立を貫いたことにはいかなる意味があったのか、後期の授業の中核的な問いはこれである。</p>											
【到達目標】											
戦時における中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> (1) 第二次世界大戦の中立国（1回） (2) アイルランド自由国からエールへ（1回） (3) 「緊急事態」の到来と中立宣言（1回） (4) ナチズムとIRA（1回） (5) 侵攻の脅威と参戦圧力（2回） (6) 対アメリカ関係（1回） (6) 「友好的中立」と戦争協力（2回） (7) 検閲国家（2回） (8) 国民生活（1回） (9) 北アイルランドの大戦経験（1回） (10) 戦後の孤立（1回） (11) 総括（1回） 											
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。											
【履修要件】											
前期の授業を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、グルジア(ジョージア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
【授業外学修(予習・復習)等】											
<p>各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは、月曜3限とする。</p>											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East									
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものに見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料に参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソング(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p> <p>講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 グローバル地域文化学部 教授 水谷 智			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「間-帝国史」の視点からみた日・英帝国における植民地支配と抵抗									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、異なる帝国間の同時代的な関係性を歴史化する「間-帝国史」(trans-imperial history)の視座から、植民地主義とそれへの抵抗の歴史を再考することである。事例として、イギリス帝国と日本帝国およびそれぞれの植民地(特にエジプト・インドと台湾・朝鮮)をとりあげ、議論する。各テーマに2週を割り当て、ディスカッションをとり入れたインタラクティブな授業をおこなう。											
【到達目標】											
帝国史研究および植民地研究についての知識を深めつつ、「間-帝国史」の視点から近代の歴史を問うことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
間-帝国史(trans-imperial history)の理論と方法【第1~2週】											
第1部 間-帝國的協力と植民地統治											
台湾の植民地化の始まりとイギリス人顧問官・W.M. カークウッド【第3~4週】											
朝鮮の保護国化とモデルとしてのイギリスのエジプト支配【第5~6週】											
植民政策の「国際標準」と日本帝国【第7~8週】											
第2部 反植民地主義と間-帝國的緊張											
対立する帝国と独立運動 日本人にとってのインドとイギリス人にとっての朝鮮【第9~10週】											
「反植民地主義的な帝国」(?) 汎アジア主義者と日本の朝鮮統治【第11~12週】											
被支配経験と感情的連帯: インド・朝鮮における抵抗と相互連関【第13~14週】											
総括【第15週】											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

英語の学術論文を参考文献として提示することがあるが、読む努力をいとわない人が受講者として望ましい。

[成績評価の方法・観点]

毎回の質問・コメントの提出（50％）とディスカッションへの参加（50点）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.1dd6f580b031cf12.html>（「間-帝国史」に関するダウンロード可能な拙論が何本かあります。関心のある人は目を通してみてください。）

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ配付された参考文献はできるだけ読む努力をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史研究事始									
【授業の概要・目的】											
<p>概要：講師の専門（近現代日本の社会運動史、社会思想史、史学史）に基づく、歴史研究の導入教育。</p> <p>目的：講師が歴史研究のプロセスを受講者に開示する。歴史研究における問題意識・目的・方法などを受講者が批判的に検討することで、自身の歴史研究や社会認識の糧にもらうことが本講義の目的である。なお、本講義は必ずしも他分野の歴史研究の参考となるわけではないことをご理解いただきたい。</p>											
【到達目標】											
歴史研究の意義を理解し、その目的・方法を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テーマ設定、先行研究の整理と分析 3 施設見学と資料調査1 4 施設見学と資料調査2 5 施設見学と資料調査3 6 施設見学と資料調査4 7 その他の資料調査（古書、聴き取り） 8 収集資料の整理・保存と研究活用 9 資料の読解1 10 資料の読解2 11 資料の読解3 12 歴史を叙述する1 13 歴史を叙述する2 14 歴史を叙述する3 15 まとめ <p>なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>											
【履修要件】											
必須ではないが、歴史研究に従事する意志があればありがたい。受講者の人数によっては別途選抜につき検討する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（40点）と期末レポート（40点）、平常点（20点）等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系90

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近現代社会経済史									
【授業の概要・目的】											
近現代日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く工業化と経済成長とを成し遂げ、それと同時に帝国主義国にもなった日本の経験について理解を深めることは、現代日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、発展途上国の経済開発や今後の国際関係などについて考察する際にも有益であろう。											
【到達目標】											
現代日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 近世経済の概観 2 . 幕末・維新期の経済と政策 3 . 地主制の成立と機能 4 . 産業革命 5 . 帝国主義日本の成立 6 . 第1次世界大戦とその影響 7 . 不況下の成長：1920年代 8 . 昭和恐慌と経済政策 9 . 財閥と新興コンツェルン 10 . 戦前期の労使関係 11 . 「大東亜共栄圏」とその崩壊 12 . 占領、復興、特需 13 . 高度経済成長 14 . 安定成長から停滞へ 15 . フィードバック 											
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間レポート（25%）+ 期末レポート（75%）によって評価する。											
【教科書】											
レジュメを配布する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』(東京大学出版会、2021)

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』(有斐閣、2007)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系91

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エネルギーからみる日本の近現代									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、近現代日本の社会経済史をエネルギーの観点から追究することである。エネルギーの確保がどのように行なわれてきたのかを理解すると同時に、その変化が人びとの生産・生活にどう影響したのかを検討することを通じて、現代のエネルギー問題を長期的な観点から考察する能力を養いたい。											
[到達目標]											
現代におけるエネルギー問題を歴史的な視点から考察する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 産業革命と人新世 2 在来エネルギーの利用とトレードオフ 3 水資源開発の進展と植民地 4 石炭への転換と都市問題 5 エネルギー革命と臨海工業地帯 6 原子力の登場と国策共同体の形成 7 フィードバック 											
[履修要件]											
前期の講義を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポートによって評価する。											
[教科書]											
レジュメを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 平井健介・島西智輝・岸田真編著 『ハンドブック日本経済史ー徳川期から安定成長期まで』（ミネルヴァ書房、2021） 中西聡編 『経済社会の歴史ー生活からの経済史入門』（名古屋大学出版会、2017）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、関連する新聞・雑誌記事などに積極的に目を通すこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近現代中国における軍事と社会									
【授業の概要・目的】											
清末から中華人民共和国に至る時期の中国知識人における軍事と平和をめぐる議論の展開を概観する。中国近現代史に対する理解を深めるとともに、近現代中国の軍事と平和に対する見方がどのような特徴をもつのか、それらの特徴はどのような原因によって生じたのか、それらの特徴は中国に特有のものかそれともより普遍的なものか、といった諸問題について考察することを通じて、現在の中国を歴史的に捉える視点を身につける。											
【到達目標】											
東アジア、とくに中国の歴史と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 近代以前の中国の軍事制度の概観 第3回 19世紀末の諸反乱と「督撫重権」 第4回 日清戦争と日本モデル 第5回 「軍国主義」と軍事観の変容 第6回 辛亥革命と民国初期の徴兵制論 第7回 第一次世界大戦と東西文明の評価 第8回 1920年代のミリタリズム 第9回 国民革命と社会への影響 第10回 南京国民政府期の軍事と社会 第11回 日中戦争下の徴兵をめぐる問題 第12回 日中戦争から国共内戦へ 第13回 中華人民共和国の軍制と社会 第14回 講義のまとめ 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点とレポートによる。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

あらかじめ資料を配付する場合はこれを読んだ上で出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学経営学部 教授 石川 亮太			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代転換期における朝鮮の経済・社会									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀朝鮮の経済史について、開港前後における経済体制の連続/非連続の問題を念頭に検討する。従来の研究では、開港後の対日貿易に注目し、それが日本の資本制工業製品と朝鮮産穀類の交換を軸に拡大していくことを強調してきた。それは開港後の日朝関係を、植民地化に向かう直線的な道程として目的論的に捉える歴史観とも親和的であった。しかし朝鮮社会の側に視点を置いて考えてみると、開港後の対日関係に触発されたかに見える変化が、実はそれ以前からの長期的なトレンドのなかで理解すべきものである場合が多々あることに気づく。こうした見方に立って、経済史上の諸論点について近年の研究成果を整理し、通説的な見方を再検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮開港期の経済・社会について、日本や中国とも比較しつつ、その特徴を理解できるようになる。 ・朝鮮開港期における経済史の主要論点について、その学説史的な背景とともに理解できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この講義の視座と問題意識【1週】 2. 朝鮮後期の経済トレンドについての近年の議論【4週】 3. 開港に伴う朝鮮経済の変化【4週】 4. 東アジア経済史の視点からみた朝鮮の位置づけ【4週】 5. まとめと総括【2週】 <p>フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加に対する平常点(50パーセント)と学期末レポート(50パーセント)により評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業ではまず、以前の1945年、1981年に採択された二つの歴史決議がどのように制定され、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。とりあえずは、二つの決議を読解・分析し、決議で述べられているそれぞれの歴史事象がどのようなものだったかを調べ、党の歴史のアウトラインをたどることにする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動（政治運動）がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3-8回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 9-14回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 15回 第1、第2の決議に関して総合討論を行う。</p>											
【履修要件】											
<p>決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む(続)									
【授業の概要・目的】											
中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業では以前の二つの歴史決議の起草・採択の経緯をおさえた上で、三つ目の決議の起草・制定の経過を探り、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。三つの決議を比較・検討し、決議を制定することで、現政権が何を求めようとしているのかを分析する。											
【到達目標】											
中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動(政治運動)がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。											
【授業計画と内容】											
1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 4回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 5-12回 2021年に採択された「党の百年にわたる奮闘による大きな成果と歴史的経験に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 13-14回 三つの決議それぞれの特徴とその違いについて総合的に討議を行う。 15回 フィードバック。											
【履修要件】											
決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50点)と期末レポート(50点)の総合的評価による。											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
<p>現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションを読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1952-1954, Volume 14, Part 2: China and Japan. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。
刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を無料で入手可能。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回10ページ程度読み進める。報告担当者は、当該箇所の全訳を作成する。受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系97

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本近現代史研究精読（植民地と戦後）									
[授業の概要・目的]											
日本近現代史の学術書を精読する。報告と討論を通じて、学術書の意義や論点の見つけ方を身につけ、あわせて世界史の一部としての日本近現代史に関する理解を深める。 さらに大学院生としては演習を通じて、学術論文における論証の仕方や、一つの主題で研究をまとめる道筋も学び取って欲しい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・精読と報告・討論を通じて、学術書の意義や論点を捉えるための読解力・表現力を身につける。 ・批判的読解を通じて、歴史研究における論証の技術を習得する。 ・一つの主題のもとに、まとまりのある研究を構成・執筆する能力を養う。 ・近現代の日本を世界史的視野から捉えられるようになる。 											
[授業計画と内容]											
日本の植民地統治について戦後との関係を問う研究を精読する。授業は参加者の報告と討論によって進行する（全15回）。											
<p>以下は候補文献の一部。変更・追加の可能性あり。</p> <p>飯島渉『マラリアと帝国』東京大学出版会、2005年</p> <p>高野麻子『指紋と近代』みすず書房、2016年</p> <p>キース・L・カマチョ『戦禍を記念する』岩波書店、2016年</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告（40％）と平常点（40％）、レポート（20％）によって評価する。正当な理由のない欠席は減点する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
報告者は文献を入念に読解して要点をつかみ、また論点の提起を行うこと。 報告者以外の参加者も必ず、文献を全て読了した上で、事前に質問や論点を提出すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
初回のガイダンスで報告の分担を決めるので、必ず参加すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習「植民地朝鮮の医と病を読む」									
【授業の概要・目的】											
<p>この演習では、植民地期の朝鮮についての医学・医療史についての学術論文、回顧録、小説などを読みます。コロナ・パンデミックで関心が高まっている近代医学史を学びながら、さまざまなタイプの韓国語を読む訓練をします。</p> <p>朝鮮・韓国近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく4つのパートに分かれています。近年の近代朝鮮医学史研究の動向を理解できる概説的な論文(韓国語)を講読します。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールについて講義します。植民地期朝鮮の医療衛生に関わる資料(回顧録、小説)を精読します。受講生の関心に応じて、近現代の朝鮮史に関わる学術論文や一次史料(韓国語)を読みます。昨年度は、植民地下の京城帝国大学で心理学を学んだ朝鮮人学生の回想録を読みました。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。 2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。 3) 医療衛生史を中心とする朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史・医療史についての概説</p> <p>2～4回目 近年の近代朝鮮医学史研究の動向を理解できる概説的な論文の精読</p> <p>5回目 韓国語の論文・資料の調べ方についての講義</p> <p>6～10回目 植民地期朝鮮の医学史に関わる回顧録や小説などの資料の精読史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>11～15回目 受講者の希望に応じて、韓国語の教材を選び精読します(医学史に限定しません)。</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます(受講生の韓国語レベルに合わせて授業内容は設定します)。与えられた資料の単なる日本語訳ではなく、論文中の歴史的事件や資料の背景について自分で調べてもってミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

[成績評価の方法・観点]

論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

毎回プリントを配布して、文法事項や歴史的背景の説明、参考文献の紹介をします。

[授業外学修(予習・復習)等]

2回目以降の講読・精読については予習を必須とします。担当箇所は割り当てますが、自分の担当以外の部分も予習してくる意欲があればなおよいです。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系99

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近現代中国思想史に関する文献の講読									
[授業の概要・目的]											
近現代中国の思想史を扱った、研究史上重要な論文や研究書を講読する。特に、それらがどのような文脈や史料状況、問題意識の下で書かれたものか、論証の過程や結論にどのような特徴があるか、同分野の研究の展開にどのような影響を及ぼしたか、といった点から検討を加えることで、それらの研究のもつ意味についての理解を深める。											
[到達目標]											
中国近現代史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
近現代中国の政治・社会・思想に関する研究書を読解し、問題の所在や証明の方法について検討する。 テキストの担当を決め、担当者が内容要約と解説、コメントを行い、それについて参加者全員で討議を行う。 第1回 ガイダンス、授業の進め方や分担の決定。 第2回 教員によるテキスト講読 第3-14回 受講者によるテキスト講読 第15回 フィードバック また、必要に応じて論文作成に向けての研究報告とコメント、討議を行う。											
[履修要件]											
中国語を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
報告に関する評価および授業への取り組みなどの平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
演習という形式上、担当者だけでなく、受講者全員に相応の予習・復習を要求する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 7M415 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『鹿野政直思想史論集 第1巻大正デモクラシー・民間学』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>学校教育の役割に着目しながら、民衆史研究と植民地史研究の接点を探る。 色川大吉、鹿野政直、安丸良夫、ひろた・まさきと連なる民衆史研究の動向と、1990年代以降に勃興した帝国史研究の潮流はどのように総合されうるのだろうか。民衆史の側では鹿野による伊波普猷研究があり、晩年のひろたは台湾における竹久夢二について論じた。それでは、帝国史の側では民衆史のモチーフと方法論を咀嚼してきたのだろうか。 今年度は、昨年度に引き続いて鹿野政直の仕事を読み直す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・民衆史と帝国史にかかわる基本的な事項を理解しながら、自分自身をその一部として含むところの「現代史」について考察する能力を身につける。 ・構造的な強者と構造的な弱者との力関係の下で、学校教育がどのようなものでありうるのか。この力関係をどのように補強し、あるいはどのように解体・組み換えるものとなるのかを考察する。 ・同じテキストを読みながらも、個々人につきささってくる断片がどのように異なり、どのように重なるのかを確認しつつ、他者の視点をふまえて読みを深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>今年度は、昨年度に引き続いて鹿野政直の仕事を読み直す。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 『鹿野政直思想史論集 第1巻大正デモクラシー・民間学』（岩波書店、2008年）を読む。 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業内での発言）（60%） 学期末レポート（40%） 〔評価方針〕 到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された文献を事前に読んでおくことが「予習」としての意味を持つ。

(その他(オフィスアワー等))

・昨年度、一昨年度からの継続という性格をもつので、新規の履修希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。テキストの入手方法についてそのときに指示する。事前に連絡のないままに、第1回目の授業を欠席したものの参加は認めない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 7M415 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『鹿野政直思想史論集 第3巻沖縄1 占領下を生きる』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>学校教育の役割に着目しながら、民衆史研究と植民地史研究の接点を探る。 色川大吉、鹿野政直、安丸良夫、ひろた・まさきと連なる民衆史研究の動向と、1990年代以降に勃興した帝国史研究の潮流はどのように総合されうるのだろうか。民衆史の側では鹿野による伊波普猷研究があり、晩年のひろたは台湾における竹久夢二について論じた。それでは、帝国史の側では民衆史のモチーフと方法論を咀嚼してきたのだろうか。 今年度は、昨年度に引き続いて鹿野政直の仕事を読み直す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・民衆史と帝国史にかかわる基本的な事項を理解しながら、自分自身をその一部として含むところの「現代史」について考察する能力を身につける。 ・構造的な強者と構造的な弱者との力関係の下で、学校教育がどのようなものでありうるのか。この力関係をどのように補強し、あるいはどのように解体・組み換えるものとなるのかを考察する。 ・同じテキストを読みながらも、個々人につきささってくる断片がどのように異なり、どのように重なるのかを確認しつつ、他者の視点をふまえて読みを深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>昨年度に引き続いて、鹿野政直の著作を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 『鹿野政直思想史論集 第3巻沖縄1 占領下を生きる』（岩波書店、2008年）を読む。 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業内での発言）（60%） 学期末レポート（40%） 〔評価方針〕 到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された文献を事前に読んでおくことが「予習」としての意味を持つ。

(その他(オフィスアワー等))

・昨年度、一昨年度からの継続という性格をもつので、新規の履修希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。事前に連絡のないままに、第1回目の授業を欠席したものの参加は認めない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系103

科目ナンバリング		G-LET35 78452 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習ⅢA) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>演習Ⅲは、現代史学専修に所属する学部生（3、4回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。</p> <p>授業は、報告担当者が自分の行っている、あるいは行おうとする研究について報告を行い、それをもとに教員と受講生が討論する形式で行う。報告者は、他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
<p>本演習に参加する大学院生は、よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで、より広い視野で研究対象を眺めることができ、自分の研究方法を点検するきっかけとなる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>セメスターの最初に、4月に大学院に進学した修士課程1回生が、自分の卒論をもとに研究発表を行う。（日程に余裕があれば、修士課程1回生以外の大学院生にも報告の機会を提供する。）</p> <p>前期（演習ⅢA）では、4回生（卒業予定者）はかならず1回、卒業論文の中間報告を行う。</p> <p>前期（演習ⅢA）では、3回生はかならず授業に参加し、可能な限り議論に参加する。（全15回）</p>											
【履修要件】											
現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加態度などの平常点によって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(演習ⅢA)(2)へ続く -----											

現代史学(演習ⅢA)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ、日々勉強を続けていなければ、よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて、自分の研究テーマをこえて、現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78452 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習ⅢB) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>演習Ⅲは、現代史学専修に所属する学部生（3、4回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。</p> <p>授業は、報告担当者が自分の行っている、あるいは行おうとする研究について報告を行い、それをもとに教員と受講生が討論する形式で行う。報告者は、他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
<p>この演習に参加する大学院生は、よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで、より広い視野で研究対象を眺めることができ、自分の研究方法を点検するきっかけとなる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>後期（演習ⅢB）には、4回生（卒業予定者）はかならず1回、卒業論文の中間報告を行う。（通常授業では回数が足りぬことが多いため、11月祭期間中に補講を設定する。）</p> <p>後期（演習ⅢB）には、3回生にもかならず1回、報告の機会を設ける。研究上の関心を持っていることや卒業論文で取り上げたいと考えているテーマについて、1年間の研究成果を報告する。</p> <p>大学院生は、学部生へのコメントや質問を通じて、みずからの研究上の考え方やスキルを向上させ、洗練させることを目指す。</p> <p>（全15回）</p>											
【履修要件】											
現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加態度などの平常点によって評価する。											
----- 現代史学(演習ⅢB)(2)へ続く -----											

現代史学(演習III B)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ、日々勉強を続けていなければ、よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて、自分の研究テーマをこえて、現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系105

科目ナンバリング		G-LET35 7M412 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授		小野沢 透 塩出 浩之	
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		大学院演習									
[授業の概要・目的]											
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、立論、文献・史料の実証的調査について、受講生が個別に報告する機会を設ける。報告をもとに、教員からの指導および受講生の集団ディスカッションを通じて、現代史に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。											
[到達目標]											
本演習に参加する大学院生は、それぞれ自分の研究テーマをもち、日々研究を続けていることを当然の前提としている。日々の研究成果は、それぞれの修士論文・博士論文として結実する。本演習は、研究成果の中間発表の場であり、自らの研究の到達点を客観視することを通じて次のステップを模索する重要な機会である。ここを通過することで、研究は着実に前進していく。修士課程の学生にとっては、修士論文の完成が到達目標であり、博士課程の学生については博士論文につながる学術論文の作成が到達目標となる。											
[授業計画と内容]											
各回とも、1名(場合によっては2名)の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、立論、実証研究の進捗状況について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。 (全15回)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点とレポートで総合的に評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) なし											
[授業外学修(予習・復習)等]											
大学院生にとっては、毎日が研究の日々である。この演習は日々行われている研究の中間報告の場であって、この授業の予習や復習のために研究するのではない。											
(その他(オフィスアワー等))											
なし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											